

2019年度 授業概要(シラバス)



山陽学園大学
地域マネジメント学部

2019(平成31)年度 授業概要(シラバス)

— 山陽学園大学 —

地域マネジメント学部
地域マネジメント学科

◇ 目次	1	~	2
◇ <1~2年次開講科目> (共通教育科目)	3	~	18
◇ (専門教育科目)	19	~	44
◇ <3年次以降の開講科目> [講義概要]	45	~	51

※ 履修系統図はホームページに掲載しています。
本学ホームページ > 学生支援 > 講義・シラバス・履修系統図
<http://www.sguc.ac.jp/student/syllabus>

シラバスについて

「シラバス」には、今年度開講する授業科目名や担当教員、学習内容について記載されています。各項目の内容は次のとおりです。

授業科目名 (英語表記) ①	担当者 ②		開講期 ④	区分 ⑤	配当 年次 ⑥
	単位数 ③	単位			
【授業概要】 ⑦	【学習内容(各回の授業予定)】 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15.				
【到達目標】 ⑧	⑫				
【予習・復習等準備学習の内容】 ⑨					
【留意事項】 ⑩					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験 (レポート等含む)へのフィードバックの方法】 ⑪	【テキスト】 ⑬				
	【参考図書】 ⑭				

- ① 授業科目の名称。クラス分けや授業についての補足事項が併記されることもあります。
 - ② 担当する教員氏名。複数担当の場合は連名で記載しています。
 - ③ この授業科目によって修得することができる単位数。通年科目などはシラバスが2つに分かれています。単位数を合算しないよう注意してください。
 - ④ 開講する時期を記載しています。「前期」「後期」。集中講義の場合は「集中」など。
 - ⑤ 必修科目、選択科目といった科目の区分。
 - ⑥ 対象となる学科及び学年を記載。
 - ⑦ 授業科目の概要を記載しています。
 - ⑧ 授業のねらい、修得できる内容など。
 - ⑨ 履修するにあたっての予習・復習等準備学習などについて記載しています。
 - ⑩ 履修するにあたって留意すべきことを記載しています。
 - ⑪ 試験、レポート、小テスト等、どのような方法・基準をもって成績を評価するのかを記載。
 - ⑫ 各授業毎の学習内容。週1コマの授業であれば、15週分の授業内容を記載。
 - ⑬ 授業で使用する教科書(教材を含みます)。記載のある授業科目では受講の際に支障のないよう、教科書販売やブックセンターなどで入手してください。
 - ⑭ 学習の参考となる図書などを掲載。担当教員から適宜提示されることもあります。
- ※ 各授業科目の授業形態(講義・演習・実習等)については、「履修ガイド」を参照してください。

地域マネジメント学部 地域マネジメント学科

<1～2年次開講科目>

※担当者・開講期については変更になることがあります。

共通教育科目	
<山陽スタンダード>	
知的生き方概論	3
人間学	3
<一般教養科目群>	
吉備・岡山学	4
哲学	4
法学	5
環境論	5
数学基礎	6
統計学	6
生物学	7
英語総合読解Ⅰ	7～8
英語総合読解Ⅱ	9～10
英語聴取表現Ⅰ	10～11
英語聴取表現Ⅱ	12～13
コンピュータ入門	13
データ活用入門	14
情報処理概論	14
食文化論	15
OR入門	15
自然科学概論	16
基礎経済学	16
文化人類学	17
情報基礎	17

専門教育科目	
<学部基本科目>	
地域文化論	19
経営学概論	19
ビジネスフレームワーク	20
地域産業論	20
社会調査論	21
地域実践Ⅰ(入門)	21
地域実践Ⅱ	22
デザイン論	22
地域産業マネジメント論	23
地域産業融合論	23
地域実践Ⅲ	24
地域実践Ⅳ	24
<アグリ産業科目>	
アグリ産業概論	25
アグリ設計論	25
アグリ産業各論	26
アグリ産業演習	26
アグリ産業マネジメント演習	27
<ものづくり産業科目>	
ものづくり概論	27
ものづくり設計論	28
ものづくり産業各論	28
ものづくり産業演習	29
ものづくり産業マネジメント演習	29
<商い産業科目>	
地域の商い概論	30
商い設計論	30
商い産業各論	31
商い産業演習	31
商い産業マネジメント演習	32
<政策と地域づくり科目>	
地域社会学	32
地域政策概論	33
自治体概論	33
地域情報論	34
地域資源論	34
地方法務論	35
地域情報演習Ⅰ	35
地域情報演習Ⅱ	36
地域ビジネス論	36
コミュニティ設計論	37
地域ビジネス演習	37
町と村づくり計画	38
地域財政論	38
環境政策論	39

地域マネジメント学部 地域マネジメント学科

※担当者・開講期については変更になることがあります。

<3年次以降の開講科目>

<経営実務科目>

インターンシップ入門	39
インターンシップ	40
簿記・会計論	40
簿記・会計Ⅰ	41
簿記・会計Ⅱ	41
ファイナンシャルプラン入門	42
ファイナンシャルプランⅠ	42
ファイナンシャルプランⅡ	43

講義概要

	ページ数
ベンチャービジネス論	45
地域産業戦略論	45
地域マネジメント実習	46
卒業研究基礎	46
卒業研究Ⅰ	46
卒業研究Ⅱ	46
アグリ産業融合各論	47
アグリ産業融合演習	47
アグリ産業戦略演習	47
ものづくり産業融合各論	48
ものづくり産業融合演習	48
ものづくり産業戦略演習	48
商い産業融合各論	49
商い産業融合演習	49
商い産業戦略演習	49
地域資源活用演習	50
町と村づくり演習	50
地域環境マネジメント論	50
政策と地域づくり演習	50
簿記・会計Ⅲ	51
ファイナンシャルプランⅢ	51

地域マネジメント学部
地域マネジメント学科

1～2年次開講科目
(共通教育科目)

授業科目名 (英語表記) 知的生き方概論	担当者 齊藤 育子 他		
Introduction to Academic Life	単位数 2 単位	開講期 前期	区分 必修科目 配当 年次 1年～
<p>【授業概要】 人間として「よく生きる」とはどのようなことなのか。この根源的な問いについて、山陽学園の教育の基礎を築いた上代淑をはじめ、学園と深いかかわりのあった人物の生き方を知ることを通して考える。さらに、本学園の教育理念「愛と奉仕」を実践する人間として、学生それぞれが地域の中でどのような役割を果たすことができるのか「岡山の諸地域」の学びを通して考える。</p> <p>【到達目標】 1. 山陽学園の歴史と教育理念を理解する。 2. 「愛と奉仕」を実践した人々の生き方を知る。 3. 地域の人々の生活を知り、その課題を理解する。 4. 奉仕の具体的方法を知る。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 各テーマについて図書館等を利用して予習する。返却されたレポートを再読し学びを深める。</p> <p>【留意事項】 「山陽スタンダード」としての位置づけの授業です。授業に出席しなければレポートを提出できません。講義の順序を変更する場合があります。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 各授業では、講義後にレポートを作成し提出する。15回のレポートによって、成績を評価する。なお、学科特性の時間として、上代皓三記念講演会等の公開講演会等の出席に充てることがある。希望者には、各担当者が採点基準やコメントについて解説や説明を行う。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開講趣旨の説明、受講の心得、山陽学園の歴史と建学の精神(齊藤学長) 2. 山陽学園の教育理念①上代淑の生涯(齊藤学長) 3. 山陽学園の教育理念②上代淑の「日めくり」(齊藤学長) 4. 門田界限の人々①石井十次と岡山孤児院(濱田元副学長) 5. 門田界限の人々②アリス・ベティ・アダムスと岡山博愛会運動(濱田元副学長) 6. 門田界限の人々③エドワード・ガントレットと山田耕作(濱田元副学長) 7. 岡山の歴史・文化・地理的背景(谷一副学長) 8. 和気町の人々の生活と課題(特別講師:地域包括連携協定先和気町役場職員) 9. 真庭市の人々の生活と課題(特別講師:地域包括連携協定先真庭市役所職員) 10. 平井学区の人々の生活と課題(特別講師:平井学区連合町内会関係者) 11. ボランティアの勧め(澁谷) 12. 学科特性①(学科担当者 大橋) 13. 学科特性②(学科担当者 大橋 他) 14. 学科特性③(学科担当者 大橋 他) 15. 自らの理想の生き方を語る、グループ討議(学科担当者 大橋 他) <p>【テキスト】 なし。必要に応じて、資料を配布する。</p> <p>【参考図書】 山陽学園『山陽学園百年史』、山陽学園『愛と奉仕 山陽学園創立130周年記念誌』(吉備人出版) その他、授業時に紹介する。</p>		

授業科目名 (英語表記) 人間学	担当者 北岡 宏章		
Philosophical Anthropology	単位数 2 単位	開講期 後期	区分 必修科目 配当 年次 1年～
<p>【授業概要】 物質文明の爛熟と科学技術の無節操な利用の中で、人間らしさとは何かますます見えにくくなっていく現代にあって、人間とは何か、人間性とは何かを問うことをその本質的役割とする人間学の意義にはますます大きいものがある。授業では、まず人間学の歴史や人間学的視点について概観し、そこから現代を生きる人間の諸相を捉え、考えていく。</p> <p>【到達目標】 人間学的視点について理解し、自らも人間学的なものを見方や考え方がある程度できるようになる。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 配布するプリントをよく読んで、人間学的視点を身に付けるよう努力すること。</p> <p>【留意事項】 変化のスピードが著しい現代社会とそこに生きる人間の在り方に積極的に関心を寄せ、新聞やニュースで人間学的に重要と考えられる問題を追い続け、自分の考えを持つようにしてほしい。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 1. 授業への積極的な参加 2. リフレクション・ペーパー 3. 定期試験</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間学とは何か 2. 人間学の歴史と人間学の対象 3. 人類の進化(1)類人猿からホモ属へ 4. 人類の進化(2)ホモ・サピエンスの登場と人間らしさのめげえ 5. 人類の進化(3)ホモ・サピエンスと人間性の獲得 6. 人類の進化と脳の発達および今日の脳科学研究 7. 進化の隣人チンパンジーと人間 8. 人間と言葉 9. 人間とシンボル 10. 人間と対話 11. 生殖医療と生命工学 12. AIの可能性と危うさ 13. 人間と道徳 14. 人間と宗教 15. まとめ <p>【テキスト】 毎回プリントを配布する。</p> <p>【参考図書】 授業の中で指示する。</p>		

授業科目名 (英語表記) 吉備・岡山学	担当者 田村 啓介
Introduction to Kibi and Okayama	単位数 2 単位 開講期 前期 区分 必修科目 配当 年次 2年～
<p>【授業概要】 本講義では、岡山県の歴史と文化について各時代・分野の具体的事例・事象を通して、その特徴と背景を考察する。併せて、博物館等の現地見学を実施する。</p> <p>【到達目標】 かつて「吉備」と称された岡山地域の歴史的・文化的概要を把握するとともに、その特徴を理解する。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 授業の中で取り上げた個々の文化財等について、できる限り現地を訪ねて確認する。</p> <p>【留意事項】 特になし</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 4回の小レポート提出を求め、内容評価(80%)、授業中の学習意欲等(20%)評価し、合計点で判断する。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 吉備の文化財 —その特徴と魅力① 2. 吉備の文化財 —その特徴と魅力② 3. 古代吉備の隆盛 —大地からのメッセージー 4. 中世社会の諸相 —宗教と産業の視点からー 5. 岡山の歴史と文化(岡山県立博物館展示見学) 6. 近世岡山の城郭と城下町ー備前・備中・美作ー 7. 近世岡山の文化・土木遺産ー岡山藩郡代・津田永忠の事績ー 8. 近世岡山の産業史①ー中国山地のたたら製鉄ー 9. 近世岡山の産業史②ー吉備銅山と吹屋根ベンガラー 10. 近世岡山の産業史③ー交通網の整備ー 11. 岡山の美術史(岡山県立美術館展示見学) 12. 幕末の地方創生ー備中松山藩士・山田方谷の実績ー 13. 岡山の祭礼と伝統芸能 14. 岡山の文学史(吉備路文学館展示見学) 15. まとめと展望ー文化財の保存と活用への取組ー <p>【テキスト】 必要に応じて資料を配布する。</p> <p>【参考図書】 特になし</p>

授業科目名 (英語表記) 哲学	担当者 九鬼 一人
Philosophy	単位数 2 単位 開講期 前期 区分 選択科目 配当 年次 1年～
<p>【授業概要】 ヒュームの『人間本性論』の考察を手掛かりに、心をめぐる様々な問題を考える。知覚以外に知識の基礎を求めるとはできないという、ヒュームの経験主義的哲学を紹介し、あわせてその限界を考察して、広く哲学の道案内をする。</p> <p>【到達目標】 1. 経験主義的哲学、すなわち「知覚」モデルの哲学の基本発想に馴れ親しむことができる。 2. 普遍の問題、抽象の問題、絶対的知識と蓋然的知識の区別など哲学の諸問題に触れることができる。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 次回の授業範囲をHP (http://kazuto-phil.under.jp/)にて予習しておくこと。授業後には資料を復習し暗記すること。予習1時間・復習3時間。</p> <p>【留意事項】 幅広い考察対象を含むので、一つの考え方にとらわれない態度が必要である。HPの閲覧によって授業を進める。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 経験主義的哲学の思考法に関わる選択肢問題・穴埋め問題・事項解説を期末試験として課し正答を解説する。自筆ノートのみ持ち込み可。小レポートにコメントを書いて返却し、平常点をつける。期末試験：平常点＝7:3。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに: 転喻の心理学とは インTRODクダクシヨウ: 哲学的でない授業をします 2. 【印象と観念】生まれつき人間は知識をもっているか 3. 【単純と複雑】スフィンクスをいかにして考えることができるか 4. ヒュームの逸脱 今まで経験していない青【モリスヌクス問題】 5. ヒュームの視点にないもの——知覚の背面・キュビズム 大森荘蔵(1982)『新視覚新論』 6. 【印象と観念】過去は現在の記憶・「知覚」から知られる 7. 【絶対的知識と蓋然的知識】類似をめぐる若干の考察 8. 【個別と普遍】普遍代表説 —— 個物しか知らないのになぜ普遍的なことが分かるか 9. 【個別と普遍】抽象観念の背理 —— 犬を定義できますか・現代形而上学入門 10. 因果関係には根拠がないか? —— 統計的に有意な事象の関係について 11. 死という観念を如何にして知ることができるか 大森荘蔵(1976)「三つの比喩」『物と心』 12. 【共時性精神分析学】他者の心をいかにして知るか 13. 単純な情念が如何にして類似することができるか —— 恋人への愛憎の類似性 14. 【幸福主義の倫理学】 —— イギリス幸福主義の倫理学概説 15. 哲学の講義内容を子供に伝えるために童話を読む「哲学童話 イマヌエルちゃん」 <p>【テキスト】 資料を配布する。</p> <p>【参考図書】 特になし。</p>

授業科目名 (英語表記) 法学	担当者 澤 俊晴	単位数 2 単位	開講期 前期	区分 選択科目	配当 年次 1年～
Introduction to Law					
<p>【授業概要】 現代社会で生活を営む以上、何人も法なしで済ますことはできない。つまり、我々は法の支配する社会のなかで生活している。また、法をつくり改めるのは国民・住民自身であり、人々が法の基礎的な知識を持つことが必須である。この授業では、私的自治、権利義務、所有権、過失、家族、個人と国家、生活保障、裁判、刑罰、労働者の権利などの基礎的知識と、個々の法制度の意義や作用、基本的性質などを講義する。</p> <p>【到達目標】 憲法、行政法、民法、労働法、社会保障法、消費者法、刑法などの様々な分野の法制度の意義や作用、基本的性質などについての理解が深まる。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 事前に教科書等で予習し、自らが十分に理解できなかった事項を把握し、講義終了時には疑問点についてコメントペーパーを提出し、講義後には自らそれを中心に復習を行うこと。</p> <p>【留意事項】 ポケット六法(有斐閣)かデイリー六法(三省堂)を持参するか、e-Gov法令検索の利用環境を整えること。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 講義でとりあげた法制度の理解ができていなかうかを基準として、定期試験(60点)とコメントペーパーの内容及び講義での質問などの受講態度(40点)により評価する。ただし、欠席回数が多い場合は、試験成績にかかわらず不合格とする。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の概要・法律の学び方(オリエンテーション) 2. 法の種類と体系 3. 憲法1(平等権・自由権・社会権・新しい人権) 4. 憲法2(国民主権、三権分立、議会制民主主義) 5. 民法1(信義則、人と法人、時効、所有権) 6. 民法2(契約、過失責任、損害賠償、親族・相続) 7. 会社法(商行為、株式会社、倒産処理) 8. 行政法1(行政行為、規制行政と給付行政、行政手続法) 9. 行政法2(行政組織、公務員、公物) 10. 行政法3(地方自治、行政争訟、国家賠償) 11. 情報法(情報公開、個人情報保護、知的財産権) 12. 労働法(個別的労働関係、団体的労働関係、労働関係紛争) 13. 社会保障法(社会保険、社会手当、社会福祉サービス、公的扶助) 14. 刑法(犯罪論、刑罰論、罪刑法定主義、適正手続の保障) 15. 裁判制度(三審制、民事・刑事、訴訟追行、裁判員制度、ADR) <p>【テキスト】 末川博編、法学入門(第6版補訂版)、有斐閣、2014年</p> <p>【参考図書】 藤田宙靖、行政法入門(第7版)、有斐閣、2016年</p>				

授業科目名 (英語表記) 環境論	担当者 白井 信雄	単位数 2 単位	開講期 後期	区分 選択科目	配当 年次 1年～
Environmental Science					
<p>【授業概要】 人は様々な自然的、社会的、文化的条件下で生活しており、そのような取り巻きを環境と定義している。その環境は人の諸活動の影響を強く受けて変化し、逆にその変化が人の生活にさまざまな反作用を及ぼすことになる。本講義では、環境がどのように形成されているのか、また人は環境をどのように認識しているのかについて、人と環境の関わりのある方から生じるさまざまな環境問題のメカニズムや問題解決の理念と方策について言及する。</p> <p>【到達目標】 人間と環境の関係について基本的な視点を理解し、環境問題の解決とよりよい環境のよりよい環境(と人間の関係)の創造に対する関心を高める。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 環境問題等に関する新しい情報を入手し、それと授業の内容を結びつけるように努めること。</p> <p>【留意事項】 講義中の質疑や意見交換に積極的に参加すること。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末テスト50点、中間レポート30点、授業態度20点で評価する。期末テストは、講義内容の理解度と主体的な学習による考察の深さ等の側面から採点する。中間レポートの不合格者については、問題点を指摘した上で、レポートの再提出を求める。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス: 講義の進め方、人類の発展と環境問題 2. 人間と環境の関係: 環境の恩恵、生態系サービス、環境へのつけ回しと反作用 3. 人間と環境の関係の歴史その1: 環境国家・江戸時代と産業革命、明治維新 4. 人間と環境の関係の歴史その2: 高度経済成長と公害問題・産業公害 5. 人間と環境の関係の歴史その3: 大量生産・消費と都市生活型公害、地球環境問題 6. 今日の環境問題と対策その1: 気候変動の影響と将来予測 7. 今日の環境問題と対策その2: 気候変動への2つの対策(緩和策と適応策) 8. 今日の環境問題と対策その3: エネルギー問題、原子力発電、再生可能エネルギー 9. 今日の環境問題と対策その4: 廃棄物問題、3R(リデュース、リユース、リサイクル) 10. 今日の環境問題と対策その5: 生物多様性の問題、開発、里山、外来種、鳥獣被害 11. 人間と環境のよりよい関係その1: 自然とのふれあい(フィールドワーク) 12. 人間と環境のよりよい関係その2: 環境と経済の統合的発展、エコビジネス 13. 人間と環境のよりよい関係その3: 環境と社会・コミュニティ、福祉、健康の統合的発展 14. 人間と環境の関係の論点: 自然中心か、人間中心か 15. まとめとワークショップ: 人間と環境のよりよい関係のための私たちの役割 <p>【テキスト】 授業に用いる、パワーポイントの資料を配布する。</p> <p>【参考図書】 白井信雄「環境コミュニティ大作戦～資源・エネルギーを地域でまかなう」学芸出版</p>				

授業科目名 (英語表記) 数学基礎	担当者 古川 徹	単位数 2 単位	開講期 前期	区分 選択科目	配当 年次 1年～
Fundamentals of Mathematics					
【授業概要】 高校の教科は、2012年度から数学と理科が、2013年度から他の全教科が新課程に移行した。高校数学では、旧課程の数学Cの一部が数学ⅠAやⅡBに移行し、文系志望生徒の数学の学習のウェイトが増大した。しかし一方では、必修科目になつた数学Ⅰの学習が未消化の大学生や、数学Aの全分野を学習していない大学生も多い(数学ⅡBではその傾向はさらに増大する)。この授業では高校の数学ⅠA・数学Bを中心に学習し、数学の基礎力の向上を目指す。授業の一部の内容は、後期の「統計学」の学習の基礎にもなる。	【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 小数・分数の計算, 量の単位と計算, 単位量あたりの大きさ 2. 割合, 百分率と歩合, 比の性質, 比の利用 3. 整式の割り算, 恒等式, 因数分解 4. 実数, 根号を含む式, 不等式 5. 集合演算 6. 等差数列・等比数列, いろいろな数列 7. 2次関数と方程式・不等式 8. データの分析—度数分布表, 代表値 9. データの分析—分散と標準偏差 10. データの分析—相関, 相関係数 11. 場合の数, 和の法則, 積の法則, 様々な順列 12. 組み合わせ, 重複組合せ 13. 事象と確率, 確率の基本性質 14. 独立試行, 条件付き確率 15. 整数, 約数と倍数, N進法 				
【到達目標】 テキストの例題・類題および配付プリントの問題がきちんと解けるようになること。(配布プリントの問題については、詳細な解答のプリントも配布する。)					
【予習・復習等準備学習の内容】 テキストおよび配布プリントを使って、毎回、指定された範囲の復習および予習をすること。					
【留意事項】 ○板書の内容を写すだけではなく、勉強用のノートを作ること。○分からない事は放置しないこと。○出来なかった問題は繰り返し解くこと。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 小テスト計20点と定期試験計80点の合計100点満点で評価する。計60点以上が合格となる。小テストや定期試験の問題は、テキストおよび配布プリントの練習問題から出題する。同じ問題であるが、定期試験終了時に解答のプリントを配布する。	【テキスト】 ○書名:基礎からのシグマベスト 高校 これわかる数学Ⅰ+A, 出版社: 文英堂 ○書名:新編 数学B 文部科学省検定済教科書 数研出版, 出版社: 数研出版				
	【参考図書】 (※ 高校時代の数学の教科書・参考書・問題集があれば、それも参考にすること)				

授業科目名 (英語表記) 統計学	担当者 古川 徹	単位数 2 単位	開講期 後期	区分 選択科目	配当 年次 1年～
Statistics					
【授業概要】 現代の情報化社会では、多様なデータを整理・分析してその傾向を把握する基礎的能力や、標本から母集団の特徴を科学的に把握するための統計学の素養が、各専門分野のみならず日常生活においても必要になってきた。この講義では、統計学の基本事項である資料の整理・確率分布・推定・検定を通して、統計的やもの見方や統計手法を解説する。	【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計図表, 代表値(平均値・メジアン・モードなど) 2. 散布度(範囲・四分位偏差・平均偏差・標準偏差・分散) 3. チェビシェフの不等式, データの1次変換・標準化変換, 偏差値, 変動係数 4. 相関関係, 相関係数 5. 回帰直線, 回帰直線と相関係数との関係 6. 確率変数, 確率変数の平均・分散・標準偏差, 確率変数の標準化 7. 2次元確率分布, 確率変数の独立 8. 連続的確率変数, 正規分布, 正規分布の再生性 9. 無作為標本, 標本変量, 大数の法則, 中心極限定理 10. 二項分布, ポアソン分布, ラプラスの定理 11. 統計量, 不偏推定量, 母平均と母分散の点推定 12. 母平均と母比率の区間推定 13. t分布, 母平均の検定 14. F分布, 母比率の検定 15. χ^2分布, 母分散の検定 				
【到達目標】 統計学の基本事項と基本的な考え方を学び、データを分析する能力を身につける。特に、具体例を通して、推定と検定の方法論を修得する。					
【予習・復習等準備学習の内容】 テキストおよび配布プリントを使って、毎回、授業の復習および予習をすること。なお、前期の「数学基礎」の授業を履修していることが望ましい。					
【留意事項】 ○板書の内容を写すだけではなく、勉強用のノートを作ること。○分からない事は放置しないこと。○出来なかった問題は繰り返し解くこと。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 小テスト計20点と定期試験計80点の合計100点満点で評価する。計60点以上が合格となる。小テストや定期試験の問題は、テキストおよび配布プリントの練習問題から出題する。同じ問題であるが、定期試験終了時に解答のプリントを配布する。	【テキスト】 ○書名:確率統計, 出版社: 森北出版				
	【参考図書】 ・皆本 晃弥, スッキリわかる確率統計: 一定理のくわしい証明つき一, 近代科学社, 2015年 ・小島 寛之, 完全独習 統計学入門, ダイヤモンド社, 2006年				

授業科目名 (英語表記) 生物学	担当者 柳田 元継	単位数 2 単位	開講期 前期	区分 選択科目	配当 年次 1年～
【授業概要】 本講義では、私たちの普段の生活に生物学が密接にかかわっていることを知り、かつ、各受講者のそれぞれの専門分野の基礎になりうる生物学の基本的な事項を学習していく。		【学習内容(各回の授業予定)】 1. イントロダクション 講義内容と研究紹介 2. 生物の多様性と共通性 3. エネルギーと代謝 4. 遺伝情報の複製 5. 遺伝情報の発現 6. 体液 7. 肝臓と腎臓 8. 神経系 9. 自律神経とホルモンによる調節 10. 免疫 11. 細胞と分子 12. バイオテクノロジー 13. 生殖と遺伝 14. 発生 15. 生物の環境応答			
【到達目標】 基礎レベルの生物学の知識を身につける。		【テキスト】 なし。必要に応じてプリントを配布。			
【予習・復習等準備学習の内容】 毎授業内において、前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習を行い理解を深めておくこと。		【参考図書】 なし。必要に応じて紹介。			
【留意事項】 特になし。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業中課題30%、期末テスト70%、合計100%で評価を行う。					

授業科目名 (英語表記) 英語総合読解 I (1)	担当者 中野 香	単位数 1 単位	開講期 前期	区分 選択科目	配当 年次 1年～
【授業概要】 本演習は英文読解力の養成を目指す。英文を正確に、流暢に、効果的に読む力を育成し、読解活動を話す・書く活動と組み合わせることで、学習の定着や技能の統合を図る。初級・中級レベルでは平易な英文の意味を理解することに焦点を置き、基礎的な語彙や文法、談話能力などの増強を図る。中級以上ではより複雑な英文を読み、読解方略を用いる演習や多読活動を行う。英語学習意欲の維持と向上を目指す。		【学習内容(各回の授業予定)】 1. イントロダクション この授業について / 多読入門 2. unit 1 Space Tourist (1) 内容理解 3. unit 1 Space Tourist (2) 練習 4. unit 1 Space Tourist (3) まとめ 5. unit 2 An Extraordinary woman (1) 内容理解 6. unit 2 An Extraordinary Woman(2) 練習 7. unit 2 An Extraordinary Woman(3) まとめ / unit 3 Living Without E-mail(1) 内容理解 8. unit 3 Living Without E-mail(2) 練習 9. unit 3 Living Without E-mail(3) まとめ 10. unit 4 A Moviemaker at Last(1) 内容理解 11. unit 4 A Moviemaker at Last(2) 練習 12. unit 4 A Moviemaker at Last(3) まとめ / unit 5 Trash House(1) 内容理解 13. unit 5 Trash House(2) 練習 14. unit 5 Trash House(3) まとめ 15. 前期のまとめ			
【到達目標】 (1)身近な話題を題材にした英語の文章を読み内容を理解できる、(2)読んだ内容をまとめ、英語で人に伝えることができる、(3)基本的な語彙・表現を習得する、(4)「多読」という学習方法を理解し慣れる		【テキスト】 『Totally True Book 3』J. and L. Huizenga OUP			
【予習・復習等準備学習の内容】 *小テストに備え、指定された単語を覚えておく。 *各unitの内容を英語で要約できるように準備しておく。		【参考図書】 『英語多読完全ブックガイド 第4版』古川昭夫他 編 コスモピア			
【留意事項】 *クラス指定に従って履修すること。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 *筆記試験 50%、課題・提出物 30%、授業参加 20% *希望する学生には、個別に資料を基に評価についての説明をする。					

授業科目名 (英語表記)	英語総合読解 I (2)	担当者	中野 香						
Reading and Writing in English I		単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当 年次	1年～
【授業概要】 本演習は英文読解力の養成を目指す。英文を正確に、流暢に、効果的に読む力を育成し、読解活動を話す・書く活動と組み合わせることで、学習の定着や技能の統合を図る。初級・中級レベルでは平易な英文の意味を理解することに焦点を置き、基礎的な語彙や文法、談話能力などの増強を図る。中級以上ではより複雑な英文を読み、読解方略を用いる演習や多読活動を行う。英語学習意欲の維持と向上を目指す。		【学習内容(各回の授業予定)】 1. イントロダクション この授業について / unit 1 Dish Soap for Dinner(1) 内容理解 2. unit 1 Dish Soap for Dinner(2) 練習 3. unit 1 Dish Soap for Dinner(3) まとめ / unit 2 A New Man(1) 内容理解 4. unit 2 A New Man(2) 練習 5. unit 2 A New Man(3) まとめ / unit 3 The Runner(1) 内容理解 6. unit 3 The Runner(2) 練習 7. unit 3 The Runner(3) まとめ 8. unit 4 Speed(1) 内容理解 9. unit 4 Speed(2) 練習 10. unit 4 Speed(3) まとめ / unit 5 Bad Luck, Good Luck(1) 内容理解 11. unit 5 Bad Luck, Good Luck(2) 練習 12. unit 5 Bad Luck, Good Luck(3) まとめ / unit 6 Lost and Found(1) 内容理解 13. unit 6 Lost and Found(2) 練習 14. unit 6 Lost and Found(3) まとめ 15. unit 1, 2, 3, 4, 5, 6 まとめ							
【到達目標】 (1)比較的に簡単な、日常に関する話題についての英語の文章を読み、内容を理解する、(2)内容を聞き手に伝えながら音読する、(3)使用頻度の高い基本語彙を習得する		【テキスト】 『True Stories 2 silver edition』Sandora Heyer Pearson							
【予習・復習等準備学習の内容】 *小テストに備え、指定された単語を覚えておく。 *unitごとに、本文の日本語訳を提出する。		【参考図書】 特になし							
【留意事項】 *クラス指定に従って履修すること。		【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 *筆記試験 50%、課題・提出物 30%、授業参加 20% *希望する学生には、個別に資料を基に評価についての説明をする。							

授業科目名 (英語表記)	英語総合読解 I (3)	担当者	清水 律子						
Reading and Writing in English I		単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当 年次	1年～
【授業概要】 本演習は英文読解力の養成を目指す。英文を正確に、流暢に、効果的に読む力を育成し、読解活動を話す・書く活動と組み合わせることで、学習の定着や技能の統合を図る。初級・中級レベルでは平易な英文の意味を理解することに焦点を置き、基礎的な語彙や文法、談話能力などの増強を図る。中級以上ではより複雑な英文を読み、読解方略を用いる演習や多読活動を行う。英語学習意欲の維持と向上を目指す。		【学習内容(各回の授業予定)】 1. 授業の説明 Unit 1 語句と表現 2. Unit 1 読解(概要と詳細) 3. Unit 1 練習(音読と英語活動) 4. Unit 3 語句と表現 5. Unit 3 読解(概要と詳細) 6. Unit 3 練習(音読と英語活動) 7. Unit 4 語句と表現 8. Unit 4 読解(概要と詳細) 9. Unit 4 練習(音読と英語活動) 10. Unit 5 語句と表現 11. Unit 5 読解(概要と詳細) 12. Unit 5 読解(概要と詳細) 13. Unit 9 語句と表現 14. Unit 9 読解(概要と詳細) 15. Unit 9 練習(音読と英語活動)							
【到達目標】 (1)短い平易な英語の文章を読み、概要や詳細を理解することができる。(2)英語の基本的な語彙と構造を習得する。(3)英語学習への興味や関心を高める。		【テキスト】 Heyer, S. "All New Easy True Stories" Longman							
【予習・復習等準備学習の内容】 授業後にはノートを整理し、語句や文法を復習し、本文の音読練習を行うこと。		【参考図書】 推薦図書: 黒田龍之介(2012)「外国語を始める前に」ちくまプリマー新書。							
【留意事項】 指定されたクラスで履修すること。		【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 1授業に取組む姿勢 20% 2課題・小テスト 30% 3期末試験 50% *フィードバックの方法:希望する学生には解説や採点基準などの説明を行う。							

授業科目名 (英語表記)	英語総合読解Ⅱ(1)	担当者	中野 香					
Reading and Writing in English II	単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	1年～
【授業概要】 本演習は前期の学修を踏まえながら、引き続き英文の読解に必要な力を養成する。初級・中級レベルではより複雑な英文の読解力を養う。再話などの活動を行い学習の定着を図る。上級レベルではより学術的な英文の読解力の育成を図る。読解に必要な語彙や文章構成を学び、読解方略を用いた効果的な読み方の演習を継続する。読んだ内容についてディスカッションなどを行う。英語学習意欲の維持と向上を目指す。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. 後期の授業について / unit 6 He Really Wanted to Survive(1) 内容理解 2. unit 6 He Really Wanted to Survive(2) 練習 3. unit 6 He Really Wanted to Survive(3) まとめ 4. unit 7 Dream Jobs(1) 内容理解 5. unit 7 Dream Jobs(2) 練習 6. unit 7 Dream Jobs(3) まとめ 7. unit 8 What Are Their Secrets?(1) 内容理解 8. unit 8 What Are Their Secrets?(2) 練習 9. unit 8 What Are Their Secrets?(3) まとめ 10. unit 9 Harry Potter Saved Her(1) 内容理解 11. unit 9 Harry Potter Saved Her(2) 練習 12. unit 9 Harry Potter Saved Her(3) まとめ 13. unit 10 Friends on the Wall(1) 内容理解 14. unit 10 Friends on the Wall(2) 練習 15. unit 10 Friends on the Wall(3) まとめ / 後期のまとめ							
【到達目標】 (1)身近な話題を題材にした英語の文章を読み内容を理解できる、(2)読んだ内容をまとめ、英語で人に伝えることができる、(3)基本的な語彙・表現を習得する、(4)「多読」という学習方法を理解し慣れる	【テキスト】 『Totally True Book 3』J. and L. Huizenga OUP (前期の続き)							
【予習・復習等準備学習の内容】 *小テストに備え、指定された単語を覚えておく。 *各unitの内容を英語で要約できるように準備しておく。	【参考図書】 『英語多読完全ブックガイド 第4版』古川昭夫他 編 コスモピア							
【留意事項】 *英語総合読解Ⅰ(1)を履修しておくこと *クラス指定に従って履修すること。								
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 *筆記試験 50%、課題・提出物 30%、授業参加20% *希望する学生には、個別に資料を基に評価についての説明をする。								

授業科目名 (英語表記)	英語総合読解Ⅱ(2)	担当者	中野 香					
Reading and Writing in English II	単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	1年～
【授業概要】 本演習は前期の学修を踏まえながら、引き続き英文の読解に必要な力を養成する。初級・中級レベルではより複雑な英文の読解力を養う。再話などの活動を行い学習の定着を図る。上級レベルではより学術的な英文の読解力の育成を図る。読解に必要な語彙や文章構成を学び、読解方略を用いた効果的な読み方の演習を継続する。読んだ内容についてディスカッションなどを行う。英語学習意欲の維持と向上を目指す。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. 後期の授業について / unit 7 Try, Try Again (1) 内容理解 2. unit 7 Try, Try Again (2) 練習 3. unit 7 Try, Try Again (3) まとめ / unit 9 The Coin (1) 内容理解 4. unit 9 The Coin (2) 練習 5. unit 9 The Coin (3) まとめ 6. unit 10 Love or Baseball?(1) 内容理解 7. unit 10 Love or Baseball?(2) 練習 8. unit 10 Love or Baseball?(3) まとめ / unit 11 The First Day (1) 内容理解 9. unit 11 The First Day (2) 練習 10. unit 11 The First Day (3) まとめ / unit 12 The Winning Ticket(1) 内容理解 11. unit 12 The Winning Ticket(2) 練習 12. unit 12 The Winning Ticket(3) まとめ / unit 13 Thank you(1) 内容理解 13. unit 13 Thank you(2) 練習 14. unit 13 Thank you (3) まとめ 15. unit 7, 9, 10, 11, 12, 13 まとめ							
【到達目標】 (1)比較的簡単な英語の文章を読み、内容を理解する、(2)内容を聞き手に伝えながら音読する、(3)使用頻度の高い基本語彙を習得する	【テキスト】 『True Stories 2 silver edition』Sandora Heyer Pearson (前期の続き)							
【予習・復習等準備学習の内容】 *小テストに備え、指定された単語を覚えておく。 *unitごとに、本文の日本語訳を提出する。	【参考図書】 特になし							
【留意事項】 *英語総合読解Ⅰ(1)を履修しておくこと *クラス指定に従って履修すること。								
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 *筆記試験 50%、課題・提出物 30%、授業参加20% *希望する学生には、個別に資料を基に評価についての説明をする。								

授業科目名 (英語表記)	英語総合読解Ⅱ(3)	担当者	清水 律子					
Reading and Writing in English II	単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	1年～
【授業概要】 本演習は前期の学修を踏まえながら、引き続き英文の読解に必要な力を養成する。初級・中級レベルではより複雑な英文の読解力を養う。再話などの活動を行い学習の定着を図る。上級レベルではより学術的な英文の読解力の育成を図る。読解に必要な語彙や文章構成を学び、読解方略を用いた効果的な読み方の演習を継続する。読んだ内容についてディスカッションなどを行う。英語学習意欲の維持と向上を目指す。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. 授業の説明 Unit 10 語句と表現 2. Unit 10 読解(概要と詳細) 3. Unit 10 練習(音読と英語活動) 4. Unit 13 語句と表現 5. Unit 13 読解(概要と詳細) 6. Unit 13 練習(音読と英語活動) 7. New Story 1 語句と表現 8. New Story 1 読解(概要と詳細) 9. New Story 1 練習(音読と英語活動) 10. New Story 1 練習(語彙、文法) 11. New Story 2 語句と表現 12. New Story 2 読解(概要と詳細) 13. New Story 2 練習(音読と英語活動) 14. New Story 2 練習(語彙、文法) 15. Units 10, 13, New Story1, 2のまとめ							
【到達目標】 (1) やや長めの平易な英語の文章を読み、概要や詳細を理解することができる。(2) 英語の基本的な語彙と構造を習得する。(3) 英語学習への興味や関心を高める。	【テキスト】 Heyer, S. "All New Easy True Stories" Longman							
【予習・復習等準備学習の内容】 授業後にはノートを整理し、語句や文法を復習し、本文の音読練習を行うこと。	【参考図書】 推薦図書: 黒田龍之介(2012)「外国語を始める前に」ちくまプリマー新書。							
【留意事項】 指定されたクラスで履修すること。「英語総合読解Ⅰ(3)」を履修しておくこと。								
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 1授業に取組む姿勢 20% 2課題・小テスト 30% 3期末試験 50% *フィードバックの方法: 希望する学生には解説や採点基準などの説明を行う。								

授業科目名 (英語表記)	英語聴取表現Ⅰ(1)	担当者	マグナス 桑原					
Listening and Expression in English I	単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当 年次	1年～
【授業概要】 本演習は英語聴解力の養成と口頭表現力の基盤の育成を目指す。情報などを正確に効果的に理解する力と、流暢に話すための基礎力を育成する。初級・中級レベルでは聴解に必要な語彙と発音の基礎を学び、日常会話などから必要な情報を聞き取る。中級以上ではより複雑な会話や報告などを聴き、聴解方略を用いる演習を行うと同時に、プロソディーに注目した発話練習を繰り返す。英語学習意欲の維持と向上を目指す。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. Course orientation: Icebreaker 2. Unit 1: The Weekend - Talking about the weekend 3. Unit 2: City Transportation - Asking about transportation 4. Unit 3: Neighbors - Neighborhood gossip 5. Unit 4: Celebrations - Planning a celebration 6. Unit 5: Restaurants - Making plans 7. Unit 6: Gifts - Buying a gift 8. Revision Activities 9. Unit 7: Air Travel - Preparing for takeoff 10. Unit 8: Mishaps - Describing a mishap 11. Unit 9: Jobs - Describing jobs 12. Unit 10: Keeping Fit - Asking about past actions 13. Unit 11: Invitations - Giving an invitation 14. Unit 12: Campus Life - Describing likes and dislikes 15. Review							
【到達目標】 1. To improve listening skills; 2. To improve pronunciation; 3. To increase understanding of everyday conversations in English.	【テキスト】 Developing Tactics for Listening, 3rd Edition. Jack C. Richards. Oxford University Press							
【予習・復習等準備学習の内容】 授業前には、分からない言葉や表現の意味全文を調べて、発音の練習をしてもらうこと。	【参考図書】 特になし							
【留意事項】 特になし								
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 Class Participation: 20% Vocabulary tests: 20% Listening Exam: 50% Pronunciation Assignment 10%								

授業科目名 (英語表記)	英語聴取表現 I (2)	担当者	久保田 靖子					
Listening and Expression in English I	単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当 年次	1年～
【授業概要】 本演習は英語聴解力の養成と口頭表現力の基礎の育成を目指す。情報などを正確に効果的に理解する力と、流暢に話すための基礎力を育成する。初級・中級レベルでは聴解に必要な語彙と発音の基礎を学び、日常会話などから必要な情報を聞き取る。中級以上ではより複雑な会話や報告などを聴き、聴解方略を用いる演習を行うと同時に、プロソディーに注目した発話練習を繰り返す。英語学習意欲の維持と向上を目指す。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. イントロダクション 2. Unit 4: Routines (vocabulary and listening) / 日本語と英語の音の違い 3. Unit 4: Routines (listening and speaking) / カタカナ英語と本来の英語の音の違い 4. Unit 5: Dates (vocabulary and listening) / 注意したい母音の発音 5. Unit 5: Dates (listening and speaking) / 注意したい子音の発音 6. Unit 12: Prices (vocabulary and listening)/ 強弱リズム 7. Unit 12: Prices (listening and speaking) / イントネーション 8. 中間まとめと復習テスト 9. Unit 19: Shopping (vocabulary and listening) / 音の連鎖(句の例) 10. Unit 19: Shopping (listening and speaking) / 音の連鎖(文の例) 11. Unit 2: Describing People (vocabulary and listening) / 音の脱落(句の例) 12. Unit 2: Describing People (listening and speaking) / 音の脱落(文の例) 13. Unit 3: Clothes (vocabulary and listening) / 音の同化(句の例) 14. Unit 3: Clothes (listening and speaking) / 音の同化(文の例) 15. まとめと発音テスト							
【到達目標】 1. 生活場面で交わされる会話から必要な情報を聞き取ることができる。 2. 英語の基本的な発音のルールを習得する。 3. 聴解に必要な基本語彙を身につける。	【テキスト】 <i>Basic Tactics for Listening 3rd Edition</i> Jack C. Richards Oxford University Press							
【予習・復習等準備学習の内容】 ・次回の授業の語彙学習を行うこと。 ・発音練習を授業外でも行うこと。	【参考図書】 「やさしい英語の発音」 原岡 笙子 語研 「これ1冊で英語のリスニングがマスターできる！」 横山安紀子 ナツメ社							
【留意事項】 英和辞典を持参すること。	【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 リスニングテスト 50%、発音テスト 20%、課題 20%、授業への取り組み 10%で評価する。 (フィードバックの方法:希望する学生には、問題解説や採点基準などの説明を行う。)							

授業科目名 (英語表記)	英語聴取表現 I (3)	担当者	久保田 靖子					
Listening and Expression in English I	単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当 年次	1年～
【授業概要】 本演習は英語聴解力の養成と口頭表現力の基礎の育成を目指す。情報などを正確に効果的に理解する力と、流暢に話すための基礎力を育成する。初級・中級レベルでは聴解に必要な語彙と発音の基礎を学び、日常会話などから必要な情報を聞き取る。中級以上ではより複雑な会話や報告などを聴き、聴解方略を用いる演習を行うと同時に、プロソディーに注目した発話練習を繰り返す。英語学習意欲の維持と向上を目指す。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. イントロダクション 2. Unit 4: Routines (vocabulary and listening) / 日本語と英語の音の違い 3. Unit 4: Routines (listening and speaking) / カタカナ英語と本来の英語の音の違い 4. Unit 5: Dates (vocabulary and listening) / 注意したい母音の発音 5. Unit 5: Dates (listening and speaking) / 注意したい子音の発音 6. Unit 12: Prices (vocabulary and listening)/ 強弱リズム 7. Unit 12: Prices (listening and speaking) / イントネーション 8. 中間まとめと復習テスト 9. Unit 19: Shopping (vocabulary and listening) / 音の連鎖(句の例) 10. Unit 19: Shopping (listening and speaking) / 音の連鎖(文の例) 11. Unit 2: Describing People (vocabulary and listening) / 音の脱落(句の例) 12. Unit 2: Describing People (listening and speaking) / 音の脱落(文の例) 13. Unit 3: Clothes (vocabulary and listening) / 音の同化(句の例) 14. Unit 3: Clothes (listening and speaking) / 音の同化(文の例) 15. まとめと発音テスト							
【到達目標】 1. 生活場面で交わされる会話から必要な情報を聞き取ることができる。 2. 英語の基本的な発音のルールを習得する。 3. 聴解に必要な基本語彙を身につける。	【テキスト】 <i>Basic Tactics for Listening 3rd Edition</i> Jack C. Richards Oxford University Press							
【予習・復習等準備学習の内容】 ・次回の授業の語彙学習を行うこと。 ・発音練習を授業外でも行うこと。	【参考図書】 「やさしい英語の発音」 原岡 笙子 語研 「これ1冊で英語のリスニングがマスターできる！」 横山安紀子 ナツメ社							
【留意事項】 英和辞典を持参すること。	【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 リスニングテスト 50%、発音テスト 20%、課題 20%、授業への取り組み 10%で評価する。 (フィードバックの方法:希望する学生には、問題解説や採点基準などの説明を行う。)							

授業科目名 (英語表記)	英語聴取表現Ⅱ(1)	担当者	マグナス 桑原					
Listening and Expression in English II	単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	1年～
【授業概要】 本演習は英語聴解力の養成と口頭表現力の基盤の育成を目指す。情報などを正確に効果的に理解する力と、流暢に話すための基礎力を育成する。初級・中級レベルでは聴解に必要な語彙と発音の基礎を学び、日常会話などから必要な情報を聞き取る。中級以上ではより複雑な会話や報告などを聴き、聴解方略を用いる演習を行うと同時に、プロソディーに注目した発話練習を繰り返す。英語学習意欲の維持と向上を目指す。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. Course orientation: Icebreaker 2. Unit 1: The Weekend – Talking about the weekend 3. Unit 2: City Transportation – Asking about transportation 4. Unit 3: Neighbors – Neighborhood gossip 5. Unit 4: Celebrations – Planning a celebration 6. Unit 5: Restaurants – Making plans 7. Unit 6: Gifts – Buying a gift 8. Revision Activities 9. Unit 7: Air Travel – Preparing for takeoff 10. Unit 8: Mishaps – Describing a mishap 11. Unit 9: Jobs – Describing jobs 12. Unit 10: Keeping Fit – Asking about past actions 13. Unit 11: Invitations – Giving an invitation 14. Unit 12: Campus Life – Describing likes and dislikes 15. Review							
【到達目標】 1. To improve listening skills; 2. To improve pronunciation; 3. To increase understanding of everyday conversations in English.	【テキスト】 Developing Tactics for Listening, 3rd Edition. Jack C. Richards. Oxford University Press							
【予習・復習等準備学習の内容】 授業前には、分からない言葉や表現の意味全文を調べて、発音の練習をしてくること。	【参考図書】 特になし							
【留意事項】 特になし	【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 Class Participation: 20% Vocabulary tests: 20% Listening Exam: 50% Pronunciation Assignment 10%							

授業科目名 (英語表記)	英語聴取表現Ⅱ(2)	担当者	久保田 靖子					
Listening and Expression in English II	単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	1年～
【授業概要】 本演習は前期の学修を踏まえながら、引き続き英語の聴解に必要な力Unit 9: Location (listening and speaking)/シャドーイング②:プロソディ分析と口頭表現力の基盤を育成する。初級・中級レベルでは、より複雑な会話や説明などを聞いて理解する力を養い、会話などの音読やロールプレイなどを通して流暢に話す力の基盤を固める。上級レベルでは、より学術的で広いジャンルの聴解力の育成を図る。講義を理解し、理解した内容を口頭で要約する。英語学習意欲の維持と向上を目指す。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. イントロダクション/前期を振り返って 2. Unit 18: The Weather (vocabulary and listening)/発音前期の復習 3. Unit 18: The Weather (listening and speaking)/発音前期の復習 4. Unit 11: Entertainment (vocabulary and listening)/ シャドーイング①:テキストを読む 5. Unit 11: Entertainment(listening and speaking)/ シャドーイング①:シンクローディング 6. Unit 13: Restaurants (vocabulary and listening)/シャドーイング①: プロソディ分析 7. Unit 13: Restaurants (listening and speaking)/シャドーイング①: シャドーイング 8. 中間まとめと復習テスト/シャドーイング①練習 9. Unit 24: Health (vocabulary and listening)/ シャドーイング①: 録音 10. Unit 24: Health (listening and speaking)/シャドーイング②: テキストを読む 11. Unit 9: Location (vocabulary and listening)/シャドーイング②:シンクローディング 12. Unit 9: Location (listening and speaking)/シャドーイング②:プロソディ分析 13. Unit 21: Direction (vocabulary and listening)/シャドーイング②:シャドーイング 14. Unit 21: Direction (listening and speaking)/シャドーイング②: 練習 15. まとめと発音テスト(シャドーイング②の録音)							
【到達目標】 1. 日常生活で交わされる会話を聴き、必要な情報を得ることができる。 2. 英語らしい抑揚や強勢を身に付ける。 3. 聴解に必要な語彙を習得する。	【テキスト】 Basic Tactics for Listening 3rd Edition Jack C. Richards Oxford University Press							
【予習・復習等準備学習の内容】 ・次回の授業の語彙学習を行うこと。 ・発音練習を授業外でも行うこと。	【参考図書】 特になし							
【留意事項】 ・英和辞典を持参すること。 ・「英語聴取表現Ⅱ(2)」を履修しておくこと。	【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 リスニングテスト 50%、発音テスト 20%、課題 20%、授業への取り組み 10%で評価する。 (フィードバックの方法:希望する学生には、問題解説や採点基準などの説明を行う。)							

授業科目名 (英語表記)	英語聴取表現Ⅱ(3)	担当者	久保田 靖子					
Listening and Expression in English II	単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	1年～
【授業概要】 本演習は前期の学修を踏まえながら、引き続き英語の聴解に必要な力Unit 9: Location (listening and speaking)/シャドーイング②:プロソディ分析と口頭表現力の基盤を育成する。初級・中級レベルでは、より複雑な会話や説明などを聞いて理解する力を養い、会話などの音読やロールプレイなどを通して流暢に話す力の基盤を固める。上級レベルでは、より学術的で広いジャンルの聴解力の育成を図る。講義を理解し、理解した内容を口頭で要約する。英語学習意欲の維持と向上を目指す。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. イントロダクション/前期を振り返って 2. Unit 18: The Weather (vocabulary and listening)/発音前期の復習 3. Unit 18: The Weather (listening and speaking)/発音前期の復習 4. Unit 11: Entertainment (vocabulary and listening)/ シャドーイング①:テキストを読む 5. Unit 11: Entertainment(listening and speaking)/ シャドーイング①:シンクロリーディング 6. Unit 13: Restaurants (vocabulary and listening)/シャドーイング①: プロソディ分析 7. Unit 13: Restaurants (listening and speaking)/シャドーイング①: シャドーイング 8. 中間まとめと復習テスト/シャドーイング①練習 9. Unit 24: Health (vocabulary and listening)/ シャドーイング①: 録音 10. Unit 24: Health (listening and speaking)/シャドーイング②:テキストを読む 11. Unit 9: Location (vocabulary and listening)/シャドーイング②:シンクロリーディング 12. Unit 9: Location (listening and speaking)/シャドーイング②:プロソディ分析 13. Unit 21: Direction (vocabulary and listening)/シャドーイング②:シャドーイング 14. Unit 21: Direction (listening and speaking)/シャドーイング②:練習 15. まとめと発音テスト(シャドーイング②の録音)							
【到達目標】 1. 日常生活で交わされる会話を聴き、必要な情報を得ることができる。 2. 英語らしい抑揚や強勢を身に付ける。 3. 聴解に必要な語彙を習得する。	【テキスト】 <i>Basic Tactics for Listening 3rd Edition</i> Jack C. Richards Oxford University Press							
【予習・復習等準備学習の内容】 ・次回の授業の語彙学習を行うこと。 ・発音練習を授業外でも行うこと。	【参考図書】 特になし							
【留意事項】 ・英和辞典を持参すること。 ・「英語聴取表現I(3)」を履修しておくこと。	【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 リスニングテスト 50%、発音テスト 20%、課題 20%、授業への取り組み 10%で評価する。 (フィードバックの方法:希望する学生には、問題解説や採点基準などの説明を行う。)							

授業科目名 (英語表記)	コンピュータ入門	担当者	小林 伸行					
Introduction to Computer Systems	単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当 年次	1年～
【授業概要】 学内のパソコンを使用するための基本を学習する。まず、パソコンの使用法に関することを学び、次にインターネットと電子メールの使用法と注意点などを学習し、レポート作成のためにWordの使い方を学習する。コンピュータが使えるということは自分で調べて新しい使い方を身につけられるということです。教科書を自分で読みながら、メールの送受信やWordの基本的な使い方を覚えた後、教科書に載っていないことを自分自身でトライしながら、新しい機能を覚えていく。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. パソコン・Windowsの利用方法 2. eメールの使用法としくみ 3. Wordの基本と文字入力・文書の保存 4. 文書の読み込みとページ設定 5. ヘッダー・フッターと文書の印刷 6. カットアンドペースト 7. 書式設定(1) 文字の大きさ・色・スタイル・書体など 8. 表の作成 9. ワードアートとクリップアート 10. 図形描画 11. スマートアート 12. 書式設定(2) 囲い文字・特殊な文字飾りなど 13. 差し込み印刷 14. グラフの挿入 15. DTP機能							
【到達目標】 ・学内のコンピュータやプリンタ、メールアドレスが利用できる。 ・Excelを用いて表やグラフを作成できる。 ・情報リテラシーを理解している。	【テキスト】 30時間でマスター Windows7対応 Word2010 実教出版							
【予習・復習等準備学習の内容】 次回の授業までに課題を行い、わからないことをまとめること。	【参考図書】 特になし							
【留意事項】 学内のパソコンを使用するためのアカウント、およびメールアドレスを配布します。	【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業中の課題とレポートで40%、期末試験40%・タイピング20%で評価する。評価について、希望する学生には個別に資料を基に説明を行う。							

授業科目名 (英語表記)	データ活用入門	担当者	小林 伸行					
Introduction to Data Processing for Practical Use	単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	1年～
【授業概要】 表計算ソフトを使用したデータ処理の方法を学習する。併せてOSの操作についても触れる。まずテキストや圧縮形式、アプリケーションごとのファイル形式など、種々のファイル形式に関する知識と、Microsoft Windowsでそれらのファイルを扱うために操作方法を学習する。次にMicrosoft Excelを使用し、Excelの操作方法、大学での学習において必要となる様々なデータの処理方法、ビジネスデータの処理方法などについて学習する。	【学習内容(各回の授業予定)】							
【到達目標】 ・さまざまなデータを適切な処理方法で処理できる。 ・Excelを用いて適切に表やグラフを作成できる。 ・Excelを用いて並べ替えや抽出・集計などができる。 ・Excelの数式を用いて、正しく計算できる。	<ol style="list-style-type: none"> Excelの基礎知識 合計の計算(SUM関数) グラフの作成と印刷 表示形式の変更 平均の計算(AVERAGE関数) セル番地の相対参照 罫線 セル番地の絶対参照 最大・最小(MAX・MIN関数) さまざまな関数(COUNT・COUNTA・ROUND・ROUNDUP・ROUNDDOWN・IF) グラフ(1) 棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ グラフ(2) 3-Dグラフ・複合グラフ・ドーナツグラフ・レーダーチャート データベース処理 Excelの応用(1) 順位づけ 行と列の検索 Excelの応用(2) 文字列の操作 データベース関数 条件付き集計 ピボットテーブルを利用した集計(1)・表 ピボットテーブルを利用した集計(2)・ピボットグラフの作成 さまざまなデータ処理の演習(1) 検索関数・データベース関数 さまざまなデータ処理の演習(2) 集計関数・3D集計 							
【留意事項】 コンピュータ入門を履修していること	【テキスト】 30時間でマスター Excel2010 実教出版							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 課題60%、期末試験40%で評価する。 評価について、希望する学生には個別に資料を基に説明を行う。	【参考図書】 特になし							

授業科目名 (英語表記)	情報処理概論	担当者	小林 伸行					
Introduction to Data Processing Systems	単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	1年～
【授業概要】 コンピュータの利用分野・利用形態、コンピュータ及びネットワークとビジネスや社会との関わり、コンピュータで扱われる情報の表現、ハードウェア、ソフトウェアについて学習する。	【学習内容(各回の授業予定)】							
【到達目標】 コンピュータとわれわれの日常生活やビジネスとの関わり、コンピュータの構成要素とその仕組み、アプリケーションと使用目的、OSの種類と役割を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> コンピュータの利用分野 身近にある情報システム(レストラン) 身近にある情報システム(コンビニ)、情報システムの学び方と職業 企業と情報システム、インターネットビジネス(電子商取引) インターネットビジネス(モバイルインターネットビジネス、インターネットマーケティング) コンピュータ小型化への流れ コンピュータネットワークと社会(歴史、WWW) コンピュータネットワークと社会(クラウド、ユビキタス) 情報とメディア、0と1の世界、整数の表現 文字データ・画像データ・音声データの表現 パソコンの解剖、CPU メインメモリ、入出力装置 補助記憶装置、インターフェイス コンピュータの記憶階層、ハードウェアとソフトウェアの関係、OS さまざまなアプリケーションソフトウェア 							
【留意事項】 特になし	【テキスト】 コンピュータ概論 第7版 魚田、渥美、植竹、大曾根、森本、綿貫 著 共立出版							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 課題(40%)、期末試験(60%)で評価を行う 評価について、希望する学生には個別に資料を基に説明を行う。	【参考図書】 キーワードで学ぶ最新情報トピックス 日経BP社							

授業科目名 (英語表記) 食文化論	担当者 藤井 久美子		
Food Culture	単位数 2 単位	開講期 前期	区分 選択科目 配当年次 2年～
【授業概要】 地域文化の一環として、日本の食文化について狩猟採取からの歴史の変遷、日本型食生活、地域の食文化、岡山の食などを概説する。また健康的な食生活のための基礎知識として、栄養素の機能や食品の特性、ライフステージに応じた栄養のあり方等について解説する。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. 世界の食文化類型 2. 日本の食文化 歴史の変遷(原始～平安) 3. 日本の食文化 歴史の変遷(鎌倉～江戸) 4. 日本の食文化 歴史の変遷(明治～現代) 5. 食具、食卓の文化 6. 和食の食材 7. 地域の食文化(行事食、郷土料理) 8. 岡山の食 9. 食生活の変化、栄養素の機能 10. 食品の特性、機能性食品 11. ライフステージの栄養(乳幼児期) 12. ライフステージの栄養(学童期、思春期) 13. ライフステージの栄養(成人期、高齢期) 14. 食物連鎖、食料廃棄、食料自給 15. 食の外部化、これからの食行動		
【到達目標】 学んだ知識を基に、持続可能な生活に必要な食の課題を認識し、自らの食行動および人々の食生活に活用することを考える。	【テキスト】 「日本の食文化 和食の継承と食育 新版」 江原絢子・石川尚子編著 アイ・ケイ・コーポレーション 配布プリント		
【予習・復習等準備学習の内容】 授業範囲を予習し、疑問に思ふ点をノートにまとめてくること。	【参考図書】 特になし		
【留意事項】 特になし	【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 ・期末試験 100% ・フィードバックを希望する学生には個別に資料を基に説明を行う。		

授業科目名 (英語表記) OR入門	担当者 古川 徹		
Operations Research	単位数 2 単位	開講期 後期	区分 選択科目 配当年次 2年～
【授業概要】 経営を効率的に実施するためには、既存の経営環境のもとで、数学モデルを構築し、解析・最適化した結果にもとづいて実践する必要がある。本講義では、まず、目標を定め、数学モデルの構築方法について学修する。そして、構築した数学モデルの解析について、各種解法を展開し、理解する。具体的には、線形計画法、整数計画法、非線形計画法、動的計画法等の経営学で用いられる代表的OR(オペレーションズ・リサーチ)の手法について学修する。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. ORの概要、日程計画 2. 目的計画(クリティカルパスの求め方) 3. 線形計画法(製造・販売計画) 4. 線形計画法(輸送問題) 5. 不確実性とOR(データの相関と確率) 6. 予測(回帰分析による予測) 7. 予測(重回帰分析による予測) 8. 在庫管理(需要が確定的な場合) 9. 在庫管理(需要が不確定的な場合) 10. ゲームの理論(囚人のジレンマ) 11. 階層化意思決定法(AHP) 12. 階層化意思決定法(AHP) 13. 包絡分析法(DEA) 14. 包絡分析法(DEA) 15. 組合せ最適化		
【到達目標】 ORの各分野における基本的な考え方と問題解決のための手法を理解すること、Microsoft Excelで各種の最適化問題を解くことができること、AHPを利用して意思決定を行うことができること。	【テキスト】 ○書名:例題で学ぶ OR入門、出版社: コロナ社		
【予習・復習等準備学習の内容】 テキストおよび配布プリントを使って、毎回、授業の復習および予習をすること。	【参考図書】 授業時に、必要に応じて紹介する。		
【留意事項】 テキストを理解するための基本的な問題をプリントで配布するので、繰り返し問題を解き基本事項を理解すること。Excelを使用するので、基本操作を学習しておくこと。	【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 小テスト計20点と定期試験計80点の合計100点満点で評価する。計60点以上が合格となる。小テストや定期試験の問題は、配布プリントの練習問題から出題する。定期試験終了時に解答のプリントを配布する。		

授業科目名 (英語表記)	自然科学概論	担当者	柳田 元継					
Introduction to Natural Science	単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	2年～
【授業概要】 本講義では、自然科学とは何かを理解することを目的とする。まず、講義の前半で、歴史を振り返りながら、その成り立ちを学んでいく。また講義の後半では、昨今のトピックを題材とし、自然科学に対する興味を深めるとともに、向きあい方を身につける。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. イントロダクション 講義内容と研究紹介 2. 古代における自然観 3. 中世の自然観とルネッサンス 4. 近代の自然科学の誕生 5. 近代の自然科学の展開 6. 近代生物学の基礎 7. 現代の物質科学-特殊相対論- 8. 現代の物質科学-宇宙の姿- 9. 現代の物質科学-原子の探究- 10. 生物科学と自然階層-個体と生態系- 11. 生物科学と自然階層-生物進化- 12. 社会の発展と科学・技術 13. 科学・技術の発展と現代の課題 14. バイオテクノロジーと現代社会 15. バイテクノロジーの展望							
【到達目標】 自然科学とは何かを理解し、興味を持つことを目標とする。	【テキスト】 なし。必要に応じてプリントを配布。							
【予習・復習等準備学習の内容】 授業の予習および復習を行い、理解を深めておくこと。	【参考図書】 新編 自然科学入門-自然との共存のために- 甲斐義幸ら 1992年 自然科学概論 木村陽二郎 1981年							
【留意事項】 特になし。	【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業中課題30%、期末テスト70%、合計100%で評価を行う。							

授業科目名 (英語表記)	基礎経済学	担当者	松尾 純廣					
Fundamentals of Economics	単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当 年次	2年～
【授業概要】 経済学にはミクロ経済学とマクロ経済学があるが、本講義ではその両方のエッセンスを経済学の入門として学び、経済学の基本的考え方の習得を目指す。具体的には、経済学とは何か、ミクロ経済学とマクロ経済学について解説した後、ミクロ経済学の基本として、消費者はどう行動するのか、企業はどう行動するのか、市場の機能と価格メカニズム、所得分配の決まり方、独占と規制、寡占市場、外部性と市場の失敗、不完全情報の世界について学ぶ。続いてマクロ経済学の基本として、GDPはどう決まるのか、マクロ経済主体の行動、財政政策、金融政策、景気と失業、インフレとデフレ、経済成長、国際経済、マクロ経済政策について学ぶ。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. 経済学とは ミクロ経済学とマクロ経済学 2. ミクロ経済学の基本 3. 消費者行動 企業行動 4. 市場と価格 5. 所得分配 6. 独占と規制 寡占市場 7. 外部性と市場の失敗 不完全情報の世界 8. マクロ経済学の基本 マクロ経済主体の行動 9. GDP 10. 財政政策 11. 金融政策 12. 景気と失業 13. インフレとデフレ 14. 経済成長 15. 国際経済 マクロ経済政策							
【到達目標】 経済学の基礎を学習することで、家計、企業や国全体の経済活動のしくみの基本を理解できるようになる。それは変動する複雑な社会を解明するためにも活用できる。	【テキスト】 大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる(角川文庫) 井原利宏 KADOKAWA ISBN-10: 4046040572 648円							
【予習・復習等準備学習の内容】 テキストは平易簡潔に書いてあるので、予習に使って欲しい。わからないところは授業で確認すれば良い。もちろん復習に使ってもらっても結構である。	【参考図書】 図解大学4年間の経済学が10時間で学べる 井原利宏 KADOKAWA ISBN-10: 4046017546 925円							
【留意事項】 特に無し。	【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末テスト80点、質問、意見等授業参加の熱意・態度20点の計100点満点で評価する。							

授業科目名 (英語表記) 文化人類学	担当者 北村 光二	単位数 2 単位	開講期 後期	区分 選択科目	配当 年次 2年～
Cultural Anthropology					
<p>【授業概要】 文化人類学の考え方に即して「文化の多様性」についての理解を深めながら、多様性を前提にした人間理解の可能性を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 私たちがあまりにも当たり前のこととして受け入れているものの見方を「問題」として取り出し、それを「他でもありえた」ものとして相対化するという文化人類学の方法や考え方を身につける。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 前回の授業の内容について、レジュメ等を参考に理解を深め、次回の授業のテーマについて、参考図書等で調べておくこと。</p> <p>【留意事項】 特になし</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 中間と期末にレポートを課す。中間30%、期末70%。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 文化と社会-個人の思いを超え出るもの 3. 未開と文明-「近代」の成立 4. 生業-生活を支え、作り出すもの 5. 日々の暮らし-狩猟採集民ブッシュマン 6. 日々の暮らし-牧畜民トウルカナ 7. 結婚と家族-恋愛至上主義と子の養育 8. 子どもと大人-成人式の衰退 9. 男と女-差別はどこから来るのか? 10. 交換・贈り物・シェアリング-経済の起源 11. 病気と死-不幸との付き合い方 12. 分類と秩序-排除の論理 13. 呪術(魔術)と儀礼-超自然的世界への通路 14. 人間にとっての時間-無限の未来という想定 15. まとめ:ワークとライフ <p>【テキスト】 特になし</p> <p>【参考図書】 浜本満・浜本まり子共編『文化人類学のコンセンサス』学術図書出版。</p>				

授業科目名 (英語表記) 情報基礎	担当者 古川 徹	単位数 2 単位	開講期 前期	区分 選択科目	配当 年次 2年～
Basic Computing Informatics					
<p>【授業概要】 どの学生にとっても、情報リテラシーは不可欠であり、その能力を日々高める必要がある。また、情報関連の授業を単に受動的に受講するだけでなく、自ら目標を立てて主体的に学習する必要がある。この授業科目は、その動機付けを行なうために開講する。授業の前半では、情報関連の資格検定試験を多数紹介し、その難易度や要求される知識・技能について概説する。後半では、ICTプロフィシエンシー検定試験(P検)の受験指導を行う。</p> <p>【到達目標】 各自のレベルに合った試験を受験し、ITスキルを客観的に判定することは重要である。ここでは、試験範囲の広いパソコン検定(P検)でITスキルを判定し、実際に受験して合格することが最終の目標になる。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 1年次前期の「コンピュータ入門」での使用テキストをよく復習し、タイピングの練習をしておくこと。</p> <p>【留意事項】 各自のレベルに応じたICTプロフィシエンシー検定試験(P検)を実際に受験するので、後半では十分に練習すること。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 小テスト10点と模擬試験90点で、合計100点満点で評価する。模擬試験では、詳細な結果が表示されるので、それも参考にすること。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の説明と受講上の注意 2. 求められるコンピュータリテラシーの事例 3. コンピュータの基礎資格と勉強法 4. システム開発者用の情報資格と勉強法 5. インターネット関連の情報資格と勉強法 6. データベース関連の情報資格と勉強法 7. パソコン検定試験(P検)を含めた検定試験の受験指導 8. 学生のタイピングの能力の判定 9. 受験のための演習指導1 (コンピュータ知識、OS:Windows 8.1) 10. 受験のための演習指導2 (ネットワーク) 11. 受験のための演習指導3 (情報モラルと情報セキュリティ) 12. 受験のための演習指導4 (ワープロ) 13. 受験のための演習指導5 (表計算) 14. 受験のための演習指導6 (プレゼンテーション) 15. 受験のための演習指導7 (受験の実践総合練習) <p>【テキスト】 ○書名:P検準2級テキスト(P検合格シリーズ)、出版社:P検事務局</p> <p>【参考図書】 授業時に、必要に応じて紹介する。</p>				

地域マネジメント学部
地域マネジメント学科

1～2年次開講科目
(専門教育科目)

授業科目名 (英語表記) 地域文化論	担当者 谷一尚	単位数 2 単位	開講期 前期	区分 必修科目	配当 年次 1年～
Regional Culture					
<p>【授業概要】 本講義では、地域で積み上げられてきた固有の歴史と文化を、本学が立地する岡山県を主要な地域事例として講義する。歴史の流れの時間軸としては、考古、古代、中世、織豊、近世、近代という時代区分で、内容としては、政治、行政、農林水産製造業、商業、社会、教育、文化等の項目について解説する。</p> <p>【到達目標】 個々の時代・地域の文化を学習しながら、その特質を理解する。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 授業範囲を予習し、疑問点はノートにまとめておくこと。授業で学んだことを定着させるため、復習を必ず実行すること。</p> <p>【留意事項】 特になし。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 各回授業で小レポートを求め、7点満点で添削し次回返却、総得点合計で成績をつける。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、恩原旧石器と縄文の海進、吉備の穴海の繁栄 2. 笠岡大飛鳥と女人禁制 3. 遣唐使真備と鑑真、正倉院 4. ボストンに渡った吉備大臣入唐絵巻 5. 東大寺再建と備前吉岡瓦 6. 法然・栄西と牛窓弘法寺練供養 7. 国宝一遍聖絵と備前福岡市 8. 備前焼と埋蔵金 9. 地頭赤木家の国宝鎧と国宝たまかき文書 10. 岡山城下町の形成と宇喜多 11. 関ヶ原以後の城下町形成、津山、松山(高梁)、成羽、足守、岡田 12. 輝政と池田の時代 13. 天神山と玉堂、漱石 14. 児島湾干拓と政商藤田伝三郎 15. まとめと展望、大原家の残したもの <p>【テキスト】 なし</p> <p>【参考図書】 谷一尚『美術館長の眼』吉備人出版2013年 谷一尚他『中国地域の藩と人、地域を支えた人びと』中国地方総合研究センター2014年</p>				

授業科目名 (英語表記) 経営学概論	担当者 松尾 純廣	単位数 2 単位	開講期 前期	区分 必修科目	配当 年次 1年～
Fundamentals of Management					
<p>【授業概要】 本講義は、経営学の基礎的な考え方について解説する。経営学を構成する企業論、経営管理論、経営組織論、経営戦略論の基本的な概念や枠組みを身に付けることによって、地域における企業経営などの実証的なビジネス現象と問題を考察できる基礎能力を育成することが目的である。今後、より専門的な経営分野を勉強していけるようになるための土台を作ることがねらいである。</p> <p>【到達目標】 1. ビジネスや企業を理解するための学問的ツールとしての経営学の基礎を身に付ける。 2. 経営学を活用して企業経営の実際を理解する方法を学修する。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 様々な基礎的な学問がそうであるが、基礎的な学問は実際の様々な現象と結び付けることで理解が進む。日々のビジネス現象に関心を持ってほしい。</p> <p>【留意事項】 特になし。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験60点、ディスカッションにおける発言や参加姿勢20点、およびディスカッションに関するレポート20点計100点満点で評価する。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業と経営のしくみ 2. 経営管理 3. 意思決定 4. 組織デザイン 5. マクロ経営組織 6. ミクロ経営組織(モチベーション、リーダーシップなど) 7. 事例学習とグループディスカッション(テーマ:ビジネスと経営組織) 8. 経営戦略と事業デザイン 9. 全社戦略 10. 事業・競争戦略 11. 機能別戦略(人事、財務など) 12. マーケティング 13. 事例学習とグループディスカッション(テーマ:競争と経営戦略) 14. 技術経営(生産管理、製品開発など) 15. グローバル経営 イノベーション経営 <p>【テキスト】 高橋伸夫(2016) 大学4年間の経営学が10時間でざっと学べる (株)KADOKAWA</p> <p>【参考図書】 加護野忠男・吉村典久(2012) 1からの経営学(第2版) (株)硯学舎 一般社団法人日本経営協会監修(2018) 経営学検定試験公式テキスト (株)中央経済社</p>				

授業科目名 (英語表記) ビジネスフレームワーク	担当者 井形 元彦		
Management Decision Processing	単位数 2 単位	開講期 後期	区分 必修科目 配当 1年～
<p>【授業概要】 産業でのビジネスを実践するにあたり、必要となる考え方にフレームワーク論がある。これは、実践行動を効率化するために、問題解決をはかるルールを確立しておくことである。その手順として、まず問題発見のフレームワーク、そこで見つけた課題を分析するためのフレームワーク、最後に評価・解決のフレームワークがあげられる。本講義では、これらのフレームワークについて事例をあげながら、解説し、その重要性について言及する。さらに、グループでフレームワークを実践し大学生生活の設計を行う。</p> <p>【到達目標】 基礎レベルのビジネスフレームワークを用いて、実践行動の意思決定に活用できるようになること。</p> <p>【準備学習の内容】 経済・経営に関する書籍、新聞記事などを、学習内容を活用して分析的に読むこと。また、次回の講義に向けて、考えてきて欲しいことを提示する。</p> <p>【留意事項】 特になし。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 15回の授業後の期末試験60点および授業の際に指示する小レポート20点、取組み姿勢(発表・質問・意見)20点により評価する。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の狙いと進め方(オリエンテーション) 2. ビジネスフレームワークと課題解決(総論) 3. ビジネスフレームワークで学生生活を設計しよう「大学生生活の目標は？」 4. 仮説検証(問題発見)のビジネスフレームワーク 5. ビジネスフレームワークで学生生活を設計しよう(あなたの「強み」「弱み」は?) 6. 情報収集・分析のビジネスフレームワーク 7. ビジネスフレームワークで学生生活を設計しよう(学生生活での「機会」「脅威」は?) 8. ロジカルシンキングのビジネスフレームワーク 9. ビジネスフレームワークで学生生活を設計しよう(「強み」「弱み」で「機会」「脅威」に対応しよう) 10. 課題構造化のビジネスフレームワーク 11. ビジネスフレームワークで学生生活を設計しよう(取組み案の評価) 12. 評価・解決のビジネスフレームワーク 13. 学生生活の設計内容のグループ発表(1) 14. 学生生活の設計内容のグループ発表(2) 15. ビジネスフレームワークのまとめ <p>【テキスト】 毎回、プリントを配布する。</p> <p>【参考図書】 特になし。</p>		

授業科目名 (英語表記) 地域産業論	担当者 横溝 功・大橋 和正・松尾 純廣		
Regional Industry	単位数 2 単位	開講期 後期	区分 必修科目 配当 1年～
<p>【授業概要】 地域を支える1次産業、2次産業、3次産業について、それぞれの産業の基本的構造・しくみ・考え方を講義する。1次産業分野では稲作、酪農畜産、果樹園芸の各領域に分け、それぞれの領域における製品の生産方式とその方法論を、また2次産業分野では、地域で特色をもつ製品を現代的工業製品と伝統的熟練製品に分類し、それらの製作過程をもとにIE技法に基づいたものづくりの方法論を、さらに3次産業では、流通システム、マネジメントおよび商品の価値と経営について言及する。</p> <p>【到達目標】 1次産業、2次産業、3次産業のそれぞれの製品の生産方式・流通システムを学習しながら、地域産業構造を理解する。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 授業で学んだことを実社会で役立たせること。そのためには、予習・復習を欠かさず実行すること。</p> <p>【留意事項】 特になし。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末テスト60点、提出物(製作品、レポートを含む)20点、出席・演習における態度と熱意20点で評価する。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域を支える1次産業のフードシステム (横溝担当) 2. 稲作と玄米の流通と消費 (横溝担当) 3. 酪農と生乳の流通と消費 (横溝担当) 4. 肉用牛と牛肉の流通と消費 (横溝担当) 5. 果樹園芸と青果物の流通と消費、1次産業のまとめ(横溝担当) 6. 手作業生産(伝統的熟練製品)と工業生産(現代的工業製品) (大橋担当) 7. 生産計画 (大橋担当) 8. 工程管理 (大橋担当) 9. 生産スケジューリング、プロジェクト・スケジューリング (大橋担当) 10. 2次産業での製品と生産方式のまとめ (大橋担当) 11. 地域における商業、サービス業等の商品とマネジメントのしくみ(松尾担当) 12. 流通システムとマーケティング(松尾担当) 13. サービス・マネジメント (松尾担当) 14. 商品の価値と経営 (松尾担当) 15. 3次産業での商品と流通のしくみとまとめ (松尾担当) <p>【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>【参考図書】 特になし</p>		

授業科目名 (英語表記)	社会調査論	担当者	大熊 正哲					
Social Research Theory	単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	1年～
【授業概要】 この授業では、まず、社会調査の意義や目的、歴史的背景、社会調査を行う上での基本的なルールやマナーなど、社会調査に関する基礎知識を修得する。また、社会調査の具体的な方法や、実施の際に注意すべき点について理解する。さらに、実際に行われた社会調査の事例によって、調査の企画から、データ収集、分析に至るまでの一連のプロセスを学び取る。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. 社会調査とは何か 2. 社会調査の種類 3. 社会調査のプロセス 4. 社会調査のデザイン 5. 実査の方法 6. 調査票の作成 7. サンプリング 8. 調査の実施 9. データの電子ファイル化 10. データの基礎的集計 11. 統計的推測 12. 変数間の関連 13. 調査報告とデータの管理 14. 社会調査の意義と今日的課題 15. 今後の学修に向けて							
【到達目標】 この講義の最終目標は、受講生が社会調査について関心と理解を深めるとともに、さまざまな地域課題の把握に対する積極的な姿勢を身につけることにある。	【テキスト】 轟亮・杉野勇編(2017)『入門・社会調査法[第3版]』法律文化社。							
【予習・復習等準備学習の内容】 毎授業後には、提示する課題を提出すること。	【参考図書】 講義中に適宜指示する。							
【留意事項】 シラバスの内容は履修者の人数や理解度に応じて変更となる場合がある。	【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末レポート 60%, その他の課題 40% の割合で総合的に評価。							
	※ 希望する履修者には必要とされる記載事項などについての講評を対面ないし E メール等の手段により行う。							

授業科目名 (英語表記)	地域実践 I (入門)	担当者	澁谷・中村・岩本・澤・西村・建井					
Field Practice for Regional Development I	単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	1年～
【授業概要】 地域を分析していくための観察・ヒアリング等の各種手法と、地域の特徴を生かすための実践活動の方法論について基礎的な事項を学習するとともに、特色あるいくつかの地域をフィールドとして、グループごとに実践活動を行う。具体的には、表町商店街と岡山市中区南部の住宅街の抱える課題を発見・把握し、その課題解決の方策を考える。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. オリエンテーション(地域実践の意義と目的)◇表町の概要説明(全員) 2. 講義:調査のしかた(観察方法、ヒアリング実施方法)、理論と方法◇岡山市中区南部概要説明(全員) 3. 講義:整理のしかた、資料の作り方、発表のしかた、レポートの書き方等の指導(全員) 4. 講義:学外学修の心構え、注意事項等の安全指導(全員) 5. 学外での実践活動:商店街での活動、住宅街での活動(全員) 6. 学外での実践活動:商店街での活動、住宅街での活動(続き)(全員) 7. 活動成果の整理(全員) 8. 資料のまとめ(全員) 9. 議論内容の発表と次週に向けた準備(全員) 10. 学外での実践活動:商店街での活動、住宅街での活動(全員) 11. 学外での実践活動:商店街での活動、住宅街での活動(続き)(全員) 12. 活動成果の整理(全員) 13. 資料のまとめ(全員) 14. 発表に向けた準備(全員) 15. 議論内容の発表・総合討論(全員)							
【到達目標】 表町商店街、および岡山市中区南部の住宅街の特性、現況、課題等を深く理解し、それらを的確に整理するとともに、課題解決策を立案すること。	【テキスト】 資料を配付する。							
【予習・復習等準備学習の内容】 準備学習としては、表町と岡山市中区南部に関する事項や、地域社会・商業・災害対策に関する事項について新聞・雑誌・TV・書籍等からの情報を収集しておくこと。	【参考図書】 図書館の新聞・雑誌・図書							
【留意事項】 授業では、前回の授業内容の復習が大切である。	【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 グループ活動の成果および個人レポートを、ルーブリックを用いて評価する。							

授業科目名 (英語表記)	地域実践Ⅱ	担当者	澁谷・中村・岩本・澤・西村・建井					
Field Practice for Regional Development II	単位数	1 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当 年次	1年～
【授業概要】 前期の地域実践I(入門)に続く演習科目である。地域実践I(入門)で提案した地域課題解決方策を実際にそれぞれの地域で実践に移す。提案した地域課題解決方策案をもとに地域課題解決に関する活動計画を策定し、地域住民の理解を得て、実際に地域課題解決活動の実践を試みる。そして、活動結果の評価についてもデータ収集を行う。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. オリエンテーション(地域実践の意義と目的)(全員) 2. 講義:2地区に関する問題提解決方策の復習と改善活動の実践計画(全員) 3. 学外での実践活動:商店街での活動、住宅街での活動(全員) 4. 学外での実践活動:商店街での活動、住宅街での活動(続き)(全員) 5. 活動成果の整理(全員) 6. 資料のまとめ(全員) 7. 議論内容の発表と次週に向けた準備(全員) 8. 学外での実践活動:商店街での活動、住宅街での活動(全員) 9. 学外での実践活動:商店街での活動、住宅街での活動(続き)(全員) 10. 活動成果の整理(全員) 11. 資料のまとめ(全員) 12. 発表に向けた準備(全員) 13. 発表用ポスターの作成(全員) 14. 商店街における課題と改善案に関するポスター発表(全員) 15. 住宅街における課題と改善案に関するポスター発表(全員)							
【到達目標】 地域課題解決に関する活動計画を策定し、地域課題解決に向けた実践活動を行うこと。	【テキスト】 資料を配付する。							
【予習・復習等準備学習の内容】 準備学習としては、地域実践I(入門)に続き、表町と中区南部に関する事項や、地域社会・商業・災害対策に関する事項について新聞・雑誌・TV・書籍等からの情報を継続して収集しておくこと。	【参考図書】 図書館の新聞・雑誌・図書							
【留意事項】 地域実践I(入門)の活動と連続性を保つことが大切である。								
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 グループ活動の成果および個人レポートを、ルーブリックを用いて評価する。								

授業科目名 (英語表記)	デザイン論	担当者	橋ヶ谷 佳正					
Product Design	単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当 年次	2年～
【授業概要】 本講義では、近代デザイン史とともに、一般的デザインとして、印刷物・画像等の視覚伝達デザイン、工業用製品を使いやすく人間工学的概念を導入した工業デザイン、インテリア・建築・ランドスケープ等の環境デザイン等について概説し、それらの変遷と現代への影響という観点から要点をまとめる。さらに、地域社会の活性化に、デザインが果たす役割について、生產品・観光・サービス等に対する、パッケージデザイン・広告デザイン等について、事例を示しながら解説する。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. オリエンテーション 2. デザインについて考える・1(グループ討議) 3. デザインについて考える・2(グループ発表) 4. デザイン史・1(産業革命～ドイツ工作連盟) 5. デザイン史・2(ドイツ工作連盟～バウハウス) 6. デザイン史・3(現代デザイン) 7. 日本デザイン史 8. 芸術とデザインについて考える(グループ討議、発表) 9. デザインの成果と課題 10. 視覚伝達デザインについて 11. 工業デザイン、製品デザインについて 12. 室内、建築、環境デザインにつて 13. まちづくりとデザイン 14. 地域活性化とデザイン 15. まとめ							
【到達目標】 ・近代デザイン史を通し、デザイン及びデザインと社会との関係を理解する。 ・意味、思考、アイデアと表現との関係を理解し、地域社会の活性化にデザインを活用できる。	【テキスト】 適宜プリントを配布する。							
【予習・復習等準備学習の内容】 講義終了時に次週の講義内容を説明しますので、講義内容・範囲を予習し、言葉理解や疑問点などをまとめてくること。	【参考図書】 『デザイン解体新書』、『デザインのデザイン』、『芸術家とデザイナー』、『ユニバーサルデザインの教科書』、『生きのびるためのデザイン』、他							
【留意事項】 質問や意見を求めます。積極的な授業参加をしてください。グループ討議・発表を行いますので、他に迷惑をかけない行動・言動をしてください。								
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 課題レポート:50%、毎回の小レポート:30%、受講姿勢・態度(積極的な授業参加・発言などを含む):20%で総合的に評価する。 レポートの不合格者については、問題点を指摘した上で、レポートの再提出を求める。								

授業科目名 (英語表記)	地域産業マネジメント論	担当者	松尾 純廣・岩本 隆志・西村 武司					
Management for Regional Industry	単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当 年次	2年～
【授業概要】 地域を支える1次産業、2次産業、3次産業について、それぞれの産業で産出する製品の管理システムについて講義する。1次産業分野では、農業における食品安全、環境保全、労働力面での持続可能性を確保するための生産工程管理等について講義する。2次産業分野では、おもに加工組立製品を対象とした製品の品質管理システムをはじめ、在庫管理システム、MRPなどの基礎的理論とそれらの応用について講義する。3次産業分野では、無形の財としてのサービス、旅行、保険等のアプリケーション・パッケージ商品を対象としたマネジメント論について考える。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. サービス産業:顧客と商品とサービス(松尾担当) 2. サービスのマネジメント(松尾担当) 3. 事例学習:製造業のビジネスとサービス(松尾担当) 4. 事例学習:農業のビジネスとサービス(松尾担当) 5. まとめとグループディスカッション:サービスとソリューション(松尾担当) 6. 製品の需要予測(岩本担当) 7. 製品の品質管理(岩本担当) 8. 製品の在庫管理とMRP生産方式(岩本担当) 9. ジャスト・イン・タイム・システム(JIT)とERP(岩本担当) 10. 2次産業におけるマネジメント論のまとめ(岩本担当) 11. 青果物の品質管理(西村担当) 12. 食品安全性のマネジメント(西村担当) 13. 環境保全型農業のマネジメント(西村担当) 14. 農業経営におけるICTの導入(西村担当) 15. 1次産業におけるマネジメント論のまとめ(西村担当)							
【到達目標】 1次産業、2次産業、3次産業のそれぞれの製品の管理システムを学習しながら、地域産業構造を理解する。アクティブ・ラーニングを通して、それぞれの管理方法の特徴について実践的理解を深める。	【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。							
【予習・復習等準備学習の内容】 授業で学んだことを日ごろの生活の中で生かせるよう努めること。そのためには、予習・復習を欠かさず、関連事項にも好奇心をもって学習に望むこと。	【参考図書】 なし							
【留意事項】 実践演習の導入で、理論と実践の融合を図る(アクティブ・ラーニングの推進)。学習したことがどのような場で役立つか実践を通して理解すること。								
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末テスト60点、提出物(製作品、レポートを含む)20点、出席・演習における態度と熱意20点で評価する。								

授業科目名 (英語表記)	地域産業融合論	担当者	大橋 和正・松尾 純廣・横溝 功					
Integrated Regional Industry	単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当 年次	2年～
【授業概要】 地域を支える1次産業、2次産業、3次産業について、それぞれの産業のみならず、産業間の関連分析や産業ごとに異なった目標をもつ場合の融合的問題解決法、サプライチェーンの管理方法等について講義する。とくに1次産業分野においては稲作・酪農畜産・果樹園芸など農畜産物の生産を対象にした融合論、2次産業分野においては、ものづくり産業における生産管理の融合論、3次産業分野においてはサービスにおける融合論を講義する。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. 主食用米の機械化と流通(横溝担当) 2. 稲WCSの機械化と流通(横溝担当) 3. 酪農における機械化と六次産業化(横溝担当) 4. 中小家畜における六次産業化(横溝担当) 5. ぶどうの色彩選別カメラの導入とまとめ(横溝担当) 6. ものづくり産業におけるサプライチェーン・マネジメント(大橋担当) 7. 単一の目標を満たす生産管理法(大橋担当) 8. 複数の目標を同時に満たす生産管理法のいろいろ(大橋担当) 9. 複数の目標を同時に満たす生産管理法の適用例と演習(大橋担当) 10. ものづくり産業における融合論のまとめ(大橋担当) 11. 顧客価値とサービスイノベーション(松尾担当) 12. ビジネス融合化とサービスデザイン(松尾担当) 13. 融合化事例学習:農業とサービスデザイン(松尾担当) 14. 融合化事例学習:製造業とサービスデザイン(松尾担当) 15. まとめとグループディスカッション:ビジネス融合化の意義と課題(松尾担当)							
【到達目標】 それぞれの産業において、定型的経営スタイルから枠を越えて融合的経営スタイルへの移行が現実化する中で、効率的な経営方法論について学修し、理解することを目指す。	【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。							
【予習・復習等準備学習の内容】 授業で学んだことを日常の生活の中で活かせるよう努めること。そのためには、予習・復習を欠かさず、関連事項にも好奇心をもって学習に望むこと。	【参考図書】 授業時に必要に応じて参考図書を紹介する。							
【留意事項】 理論と実践・演習の導入で理解を深める(アクティブ・ラーニングの推進)。								
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末テスト60点、レポート等の提出物20点、出席・演習における態度と熱意20点で評価する。								

授業科目名 (英語表記)	地域実践Ⅲ	担当者	澁谷・中村・岩本・澤・西村・建井					
Field Practice for Regional Development III	単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当 年次	2年～
【授業概要】 地域実践Ⅰ(入門)、Ⅱに続く演習であり、対象地域を代えての応用的演習である。具体的な調査対象地域を郡部・中山間地域、具体的には岡山県東部の和気町や県北の真庭市に移して、実践活動を行う。地域実践Ⅰ(入門)、Ⅱで適用した同様の手法を基にグループ別活動を実践しそれぞれの地域で行政・地域社会と協働し、地域に関する課題を発見・把握する。そして、地域課題解決策の立案を行う。	【学習内容(各回の授業予定)】							
【到達目標】 実践活動を通じて地域の特性、現況、課題等を深く理解し、それらを的確に整理し、課題解決策を立案すること。	1. オリエンテーション(全員)							
【予習・復習等準備学習の内容】 準備学習としては、それぞれの活動地域に関する事項について、新聞・雑誌・TV・書籍等からの情報を収集しておくこと。	2. 講義 : 訪問地域の概要(全員)							
【留意事項】 第6～8回、および第10～12回は週末に開催される集中講義となるので、開講日に注意すること。その他諸注意をオリエンテーション時に行うので、必ず出席すること。	3. 講義 : 実践活動の概要(全員)							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 グループ活動の成果および個人レポートを、ルーブリックを用いて評価する。	4. 現地実践の準備(文献等による対象地域の特性、現況等の把握)(全員)							
	5. 現地実践の準備(文献等による対象地域の課題等の把握)(全員)							
	6. }							
	7. } 現地実践活動 真庭 6月1日(土)、和気 6月1日(土)							
	8. }							
	9. 現地実践活動の準備(全員)							
	10. }							
	11. } 現地実践活動 真庭 6月15日(土)、和気 6月15日(土)(全員)							
	12. }							
	13. 発表に向けた準備(発表内容及びレイアウトの検討)(全員)							
	14. 発表に向けた準備(レイアウトの確定及び発表物の作成)(全員)							
	15. 発表、総合討論(真庭グループ、和気グループ合同開催)(全員)							
	【テキスト】 資料を配付する。							
	【参考図書】 図書館の新聞・雑誌・図書							

授業科目名 (英語表記)	地域実践Ⅳ	担当者	澁谷・中村・岩本・澤・西村・建井					
Field Practice for Regional Development IV	単位数	1 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当 年次	2年～
【授業概要】 地域実践Ⅲに続く演習である。地域実践Ⅲで提案した地域課題解決策をグループ別に現地で、実践に移す。提案した地域課題解決策案をもとに地域課題解決活動計画を策定し、地域住民の理解を得て、実際に、それぞれの地域で、地域課題解決活動の実践を試みる。そして、活動結果の評価についてもデータ収集を行う。	【学習内容(各回の授業予定)】							
【到達目標】 地域課題解決に関する活動計画を策定し、地域課題解決に向けた実践活動を行うこと。	1. オリエンテーション							
【予習・復習等準備学習の内容】 準備学習としては、それぞれの活動地域に関する事項について、新聞・雑誌・TV・書籍等からの情報を収集しておくこと。	2. 講義 : 地域実践Ⅲの振り返り							
【留意事項】 第6～8回、および第10～12回は週末に開催される集中講義となるので、開講日に注意すること。その他諸注意をオリエンテーション時に行うので、必ず出席すること。	3. 講義 : 実践活動の概要							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 グループ活動の成果および個人レポートを、ルーブリックを用いて評価する。	4. 現地実践の準備(活動計画の検討)							
	5. 現地実践の準備(活動計画の作成)							
	6. }							
	7. } 現地実践活動 真庭10月19日(土)～20日(日)、和気10月19日(土)							
	8. }							
	9. 現地実践活動の準備(活動計画の修正)							
	10. }							
	11. } 現地実践活動 真庭11月16日(土)、和気11月16日(土)							
	12. }							
	13. 発表に向けた準備(発表内容及びレイアウトの検討)							
	14. 発表に向けた準備(レイアウトの確定及び発表物の作成)							
	15. 発表、総合討論(真庭グループ、和気グループ合同開催)							
	【テキスト】 資料を配付する。							
	【参考図書】 図書館の新聞・雑誌・図書							

授業科目名 (英語表記)	アグリ産業概論	担当者	横溝 功						
Fundamentals of Agriculture and Agribusiness		単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当 年次	1年～
<p>【授業概要】 農産物の生産は人の生活に根ざしたものがあ。とくに、稲作・酪農畜産・果樹園芸の各領域に関する方法論は、伝統的・経験的知識と共に科学的手法が導入されてきた。ここでは、その領域ごとの方法論について講義する。そして、農産物の生産が産業構造の中で果たす役割について、とくに2次産業、3次産業との関係、また2次・3次産業間の内容の融合についても講義する。</p> <p>【到達目標】 わが国の農業やアグリ産業を取り巻く環境を大局的に理解してもら。また、農産物の供給サイドと需要サイドの両面からの接近方法について学んでもらう。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 復習を大切にしたい。分からない専門用語は、インターネット等で調べること。</p> <p>【留意事項】 一方的な講義に留まらず、グループディスカッションを導入し、双方向での対話を重視する。今後の調査研究に役立てる。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末テスト60点、小試験20点、出席における態度と熱意20点で評価する。</p>		<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 戦後から安定経済成長期へ 2. バブル崩壊以降の経済 3. わが国と他の先進国の農地の比較 4. 英国における農業革命と産業革命 5. わが国の風土と水利 6. 農業の技術進歩(1) —BC技術— 7. 農業の技術進歩(2) —M技術— 8. 稲作の制度の歴史(1) —食管法— 9. 稲作の制度の歴史(2) —食糧法— 10. 酪農の制度と技術 11. 肉用牛の制度と技術 12. 果樹園芸の制度と技術(1) —果実を対象に— 13. 果樹園芸の制度と技術(2) —野菜を対象に— 14. 農業とアグリ産業 15. アグリ産業のとりまとめ <p>【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>【参考図書】 生源寺眞一『農業と人間 食と農の未来を考える』岩波現代全書、2013年、東京、ISBN978-4-00-029114-9</p>							

授業科目名 (英語表記)	アグリ設計論	担当者	西村 武司						
Agricultural Product Design		単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	1年～
<p>【授業概要】 農産物の製品としての設計プロセスは、稲作・酪農畜産・果樹園芸の各領域においてそれぞれ異なる。しかし、共通概念としては自然を対象とした製品設計であることにはかわりはない。生活を豊かにし、健康を増進するための効果的な農産物づくりを追究し、それを自然という環境の中で実践する。そのための農産物設計に関する方法論を講義する。</p> <p>【到達目標】 農産物設計の多様性と方法論を理解する。農産物設計には、自然を所与とした生産性向上や高品質化だけでなく、消費者ニーズの把握等が関連していることを理解し、効果的な農産物設計の考え方を身につける。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 演習中に示したキーワードについて、マスメディアが発信する関連記事や参考図書を読み、内容を理解し、要約すること。</p> <p>【留意事項】 資料をMoodleにアップロードするので、適宜ダウンロードすること。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末テスト60%、レポート20%、小テスト20%で評価する。試験やレポートのフィードバックのためのオフィスアワーを設け、問題解説や採点基準などの説明を行う。</p>		<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 農産物生産と季節性(オリエンテーション) 2. 農産物を取り巻く技術革新 3. 農業の集团的取り組み 4. 品種改良の歴史 5. 品質管理 6. マーケティングの考え方と農産物設計 7. 食品加工 8. 消費者意識の変化 9. 環境保全型農業 10. ライフサイクルアセスメント 11. 生物多様性保全に向けた取り組み 12. 遺伝子組み換え作物と利益配分 13. 農産物と知的財産権 14. 国および地方自治体の政策 15. アグリ設計論のまとめ <p>【テキスト】 大泉一貫・津谷好人・木下幸雄ほか『農業経営概論』実教出版、2016、ISBN: 978-4-407-34036-5</p> <p>【参考図書】 講義中に関連書籍を紹介する。</p>							

授業科目名 (英語表記) アグリ産業各論	担当者 横溝 功
Agriculture and Agribusiness	単位数 2 単位 開講期 前期 区分 選択科目 配当 2年～
<p>【授業概要】 1次産業、とくに稲作・酪農畜産・果樹園芸の各領域における農産物の生産に焦点をあてて、伝統的営農方式から現代の慣行農法に至るまでの農産物の生産のメカニズムについて講義する。そして、現代の農産物生産に関わる生物化学的技術(BC技術)、機械工学的技術(M技術)について稲作・酪農畜産・果樹園芸の各領域にわけて講義する。</p> <p>【到達目標】 1次産業製品の基本的な生産のメカニズムを理解する。具体的には、従来の自然循環的な伝統的営農方式、品種改良の過程、化学肥料・農薬の開発過程、農業機械や施設の開発過程が、農業生産にどのような変化をもたらせたのかを学ぶ。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 復習を大切にしたい。分からない専門用語は、インターネット等で調べること。新聞やニュースで、農業やアグリ産業に関連する事項に関心を持って接すること。</p> <p>【留意事項】 一方的な講義に留まらず、グループディスカッションを導入し、双方向での対話を重視する。今後の調査研究に役立てる。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末テスト60点、小試験20点、出席における態度と熱意20点で評価する。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近世の稲作の歴史 - 豪農の役割- 2. 近代の稲作の歴史 - 老農・農事試験場の役割- 3. 現代の稲作の展開 - BC技術とM技術- 4. 稲作の課題設定とグループディスカッション < 実践演習1 > 5. 酪農経営のタイプ - 岡山県を事例に- 6. 酪農の展開 - BC技術とM技術- 7. 肉用牛繁殖経営と肥育経営 - 岡山県を事例に- 8. 肉用牛の展開 - BC技術とM技術- 9. 酪農畜産の課題設定とグループディスカッション < 実践演習2 > 10. ぶどうの産地化 - 岡山県を事例に- 11. ぶどう産地の展開 - BC技術とM技術- 12. 露地野菜と施設野菜 - 岡山県を事例に- 13. 野菜産地の展開 - BC技術とM技術- 14. 果樹園芸の課題設定とグループディスカッション < 実践演習3 > 15. 農業生産のメカニズムとアグリ産業のまとめ <p>【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>【参考図書】 生源寺眞一『農業と人間 食と農の未来を考える』岩波現代全書、2013年、東京、ISBN978-4-00-029114-9</p>

授業科目名 (英語表記) アグリ産業演習	担当者 西村 武司
Seminar in Agriculture and Agribusiness	単位数 1 単位 開講期 後期 区分 選択科目 配当 2年～
<p>【授業概要】 アグリ産業各論の演習で、稲作・酪農・果樹園芸の各領域から対象となる農産物を具体的にとりあげ、その生産に関する方法論や最適な生産を実施するための解析法の適用について演習する。また、園芸・野菜づくりのノウハウについて、先進的経営の事例を取り上げ、アグリ産業の基礎・基本を学修すると共に、基礎実践力を身につける。</p> <p>【到達目標】 先進的経営の事例に基づいて、稲作・酪農畜産・果樹園芸の各領域における創意工夫を整理し、議論できる。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 次回の授業前までに、指示された課題についてノートにまとめてくること。</p> <p>【留意事項】 資料をMoodleにアップロードするので、適宜ダウンロードすること。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 15回の授業終了後、レポートを課す。レポート50%、演習における発表内容50%で評価する。フィードバックのためのオフィスアワーを設け、採点基準などの説明を行う。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(演習の進め方の概説) 2. 稲作の歴史に基づくディスカッション 3. 稲作経営の事例に基づくディスカッション 4. 大規模稲作経営の事例に基づくディスカッション 5. 集落営農の事例に基づくディスカッション 6. 酪農経営の事例に基づくディスカッション 7. 肉用牛繁殖経営と肥育経営の事例に基づくディスカッション 8. みかん産地の事例に基づくディスカッション 9. ぶどう産地の事例に基づくディスカッション 10. もも産地の事例に基づくディスカッション 11. 露地野菜産地の事例に基づくディスカッション 12. 施設野菜産地の事例に基づくディスカッション 13. 果樹園芸経営の事例に基づくディスカッション 14. 花き園芸経営の事例に基づくディスカッション 15. アグリ産業の今後の展開 <p>【テキスト】 必要に応じて資料を配付する。</p> <p>【参考図書】 授業中に関連書籍を紹介する。</p>

授業科目名 (英語表記)	アグリ産業マネジメント演習	担当者	西村 武司					
Seminar in Management for Agricultural Industry	単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	2年～
【授業概要】 地域産業マネジメント論のアグリ産業に関わるマネジメント演習で、農産物の生産計画、品種改良等を含む開発改善に関するイノベーション、販売計画等に関する全般的管理法について演習し、マネジメントの方法論を身につける。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. オリエンテーション(演習の進め方の概説) 2. 青果物の品質管理におけるイノベーションに関するディスカッション 3. 食品安全性に対する消費者意識の変化に関するディスカッション 4. 畜産物の品質管理におけるイノベーションに関するディスカッション 5. 加工食品の品質管理におけるイノベーションに関するディスカッション 6. 生鮮食品の品質管理におけるイノベーションに関するディスカッション 7. 環境保全型農業におけるイノベーションに関するディスカッション 8. 有機農業におけるイノベーションに関するディスカッション 9. 生物多様性保全型農業におけるイノベーションに関するディスカッション 10. 地産地消に関するディスカッション 11. 伝統野菜の生産・販売に関するディスカッション 12. アニマルウェルフェアに関するディスカッション 13. 食生活とライフスタイルの変化に関するディスカッション 14. 大規模農業経営におけるICT導入の効果に関するディスカッション 15. アグリ産業マネジメントの今後の展開							
【到達目標】 農産物の生産計画、品種改良等に関するイノベーション、販売計画等について、具体的事例に基づいて考え、議論できる。	【テキスト】 必要に応じて資料を配付する。							
【予習・復習等準備学習の内容】 次回の授業前までに、指示された課題についてノートにまとめてくること。	【参考図書】 授業中に関連書籍を紹介する。							
【留意事項】 資料をMoodleにアップロードするので、適宜ダウンロードすること。								
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 15回の授業終了後、レポートを課す。レポート50%、演習における発表内容50%で評価する。フィードバックのためのオフィスアワーを設け、採点基準などの説明を行う。								

授業科目名 (英語表記)	ものづくり概論	担当者	大橋 和正					
Fundamentals of Manufacturing	単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当 年次	1年～
【授業概要】 ものづくりの歴史から始まり、江戸期のからくり人形、そして道具の発達、機械化、オートメーション化の中で、地域を支える伝統的ものづくりや機械化された現代生産のそれぞれの特徴、方法論を講義する。そして、ものづくりが産業構造の中で果たす役割について、とくに1次産業、3次産業との関係、また、1次、3次産業間の内容の融合についても講義する。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. 地域におけるものづくりとは(オリエンテーション) 2. ものづくりの変遷(道具と機械、生産方式) 3. 道具の種類と原理 4. 伝統的おもちゃとしてのからくり人形の種類と動くしくみ 5. 現代おもちゃの動くしくみ 6. 製品づくりのためのテクニカルスケッチング(第3角法) <実践演習1> 7. キャビネット図、等角図によるテクニカルスケッチング <実践演習2> 8. 動くしくみの要素設計(機械要素の種類と特徴) <実践演習3> 9. 動くしくみの機構設計 10. 動くしくみの構造設計 11. 製品製作のための加工法の種類と特徴 12. 製品製作のための加工技術 13. 手づくり生産と自動機械による工業生産 14. 製品に関する製作時間と費用の融合論、戦略論について 15. ものづくり論についてのまとめ							
【到達目標】 ものづくりの基本的な手順と方法を理解する。ものをつくるための道具・機械類に関する全般的知識、製品として形にするための設計知識、加工に関する知識等を身につける。	【テキスト】 大橋和正、暮らしに役立つ技術と工学の基礎知識、共立出版、2008年。ISBN 978-4-320-07175-9。 必要に応じてプリントを配布する。							
【予習・復習等準備学習の内容】 授業で学んだことを日頃の生活の中で生かせるよう努めること。そのためには、予習・復習を欠かさず、関連事項にも好奇心をもって学習に望むこと。	【参考図書】 大橋和正、人の発達段階を考慮したものづくり教育の体系化、風間書房、2015年。 ISBN 978-4-7599-2072-7							
【留意事項】 特になし								
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末テスト60点、提出物(製作品、レポートを含む)20点、出席・演習における態度と熱意20点で評価する。								

授業科目名 (英語表記) ものづくり設計論	担当者 岩本 隆志	単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	1年～
Manufacturing Design									
<p>【授業概要】 ものづくりは設計することから始まる。製品という「もの」を設計するという事は、製品の技術仕様に基づいて、目的の機能を果たすように機能設計し、経済的な生産となるように生産設計し、消費者に購買意欲を起こさせるように意匠設計することで貴重価値を付加することである。そこで、機能設計、生産設計、意匠設計の方法論を講義する。</p> <p>【到達目標】 手作業による伝統的ものづくり、工業的に機械化されたものづくり、さらにはコンピュータ活用ものづくり等の各種ものづくりの方法論について実践的理解を深める。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 授業で学んだことを日ごろの生活の中で生かせるよう努めること。そのためには、予習・復習を欠かさず、関連事項にも好奇心をもって学習に望むこと。</p> <p>【留意事項】 実践演習の導入で、理論と実践の融合を図る(アクティブラーニングの推進)。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末テスト60点、提出物(製作品、レポートを含む)20点、出席・演習における態度と熱意20点で評価する。</p>		<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ものを設計する意図(オリエンテーション) 2. 設計の基礎 3. 長さの単位と測定 4. 測定器の種類と特徴 5. CADによる図面描写と作成例 <実践演習 1> 6. CADによる図面作成演習 <実践演習 2> 7. 日本工業規格(JIS)と用語について 8. JISに基づく機械要素の種類と特徴 9. JISに基づく機械要素の表示法 10. 動く製品の動力としての電気的作用 11. 製品の制御としてのコンピュータの役割 12. 意匠設計における製品の形状モデリング法(ワイヤーフレームモデル) 13. 製品の形状モデリング法(ソリッドモデル) 14. コンピュータによる設計と生産管理システムについて 15. ものづくり設計論のまとめ <p>【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>【参考図書】 大橋和正、人の発達段階を考慮したものづくり教育の体系化、風間書房、2015年。 ISBN 987-4-7599-2072-7</p>							

授業科目名 (英語表記) ものづくり産業各論	担当者 大橋 和正	単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当 年次	2年～
Manufacturing Industry									
<p>【授業概要】 地域の伝統的なものづくり方法や特産物に関連した熟練製品の製作過程、さらには現代的工業製品の工程計画論など生産性向上のための生産管理技法について具体的に講義する。製品の工業的産出にはコンピュータを活用して生産目的に合致した最適生産を実現する必要があり、伝統的ものづくりによる製品産出には人の熟練の技の導入が理論的に求められる。いずれの場合にも効率的な生産管理技法が求められ、その方法論について学修する。</p> <p>【到達目標】 2次産業製品の基本的な製作の手順と方法論を理解する。具体的には、手作業による伝統的ものづくり、工業的に機械化されたものづくり、さらにはコンピュータ活用ものづくり等の方法論について実践的理解を深める。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 授業で学んだことを日常の生活の中で活かせるよう努めること。そのためには、予習・復習を欠かさず、関連事項にも好奇心をもって学習に望むこと。</p> <p>【留意事項】 理論と実践・演習の導入で理解を深める(アクティブラーニングの推進)。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末テスト60点、レポート等の提出物20点、出席・演習における態度と熱意20点で評価する。</p>		<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ものづくりと生産管理技法(オリエンテーション) 2. 生産予測(単純移動平均法、重み付け移動平均法) 3. 各種製品の生産予測演習 <実践演習1> 4. 生産計画(線形計画法) 5. 工程計画(工程設計-動的計画法) 6. 工程計画(作業設計-生産時間の最適化法) 7. 手作業生産の熟練モデル(陶器生産の工程設計) 8. 作業設計演習(陶器製作) <実践演習2> 9. 作業設計演習(組み木製作) <実践演習3> 10. 生産スケジューリング(フローショップモデル) 11. 生産スケジューリング(ジョブショップモデル) 12. 各種製品生産におけるスケジューリング演習 <実践演習4> 13. プロジェクトスケジューリング(PERT) 14. プロジェクトスケジューリング(クリティカルパス) 15. ものづくりと生産管理技法のまとめ <p>【テキスト】 大橋和正、暮らしに役立つ技術と工学の基礎知識、共立出版、2008年、 ISBN 978-4-320-07175-9。 必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>【参考図書】 大橋和正、人の発達段階を考慮したものづくり教育の体系化、風間書房、2015年、 ISBN 978-4-7599-2072-7。</p>							

授業科目名 ものづくり産業演習	担当者 大橋 和正	単位数 1 単位	開講期 後期	区分 選択科目	配当 年次 2年～
Seminar in Manufacturing Industry					
<p>【授業概要】 ものづくり産業各論の演習で、伝統的熟練製品や現代的工業製品等の具体的ものづくり例に関して多くの知識を共有しながら、習得した生産管理技法の現実的な適用方法・解析法を理解し、演習を通して、実践力を身につける。具体的には、製品製作のモデルとして、ペーパークラフトによるものづくり実践を通して、設計の仕方、考え方、そして、つくり方の実践力を身につける。</p> <p>【到達目標】 ものづくりに関する理論を実践活動の中で活かすことを目的とする。具体的には、紙を通して、まず製品のモデルづくりから始め、製作の実用可能性を探る手順を身につける。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 授業で学んだことを日常の生活の中で活かせるよう努めること。そのためには、予習・復習を欠かさず、関連事項にも好奇心をもって学習に望むこと。</p> <p>【留意事項】 理論と実践・演習の導入で理解を深める(アクティブラーニングの推進)。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末テスト60点、レポート等の提出物20点、出席・演習における態度と熱意20点で評価する。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション ペーパークラフトによるメカおもちゃのモデリング 設計段階でのメカおもちゃの動く仕組み(概念設計) 展開図の描き方・考え方 相貫体の展開図 <実践演習1> 立体模型の展開図の描き方演習とペーパークラフト <実践演習2> 紙によるメカおもちゃの機械要素設計(カム展開図演習) <実践演習3> 紙によるメカおもちゃの機構設計 <実践演習4> 紙によるメカおもちゃの製品展開図(製品設計) <実践演習5> 紙によるメカおもちゃの作業手順設計(工程計画) <実践演習6> 紙によるメカおもちゃの製作 <実践演習7> 紙によるメカおもちゃの製作と調整 <実践演習8> 紙によるメカおもちゃ製品の動きの改善 <実践演習9> モデリングとしてのメカおもちゃの完成と現実製品への適用考察 まとめ <p>【テキスト】 必要に応じて資料・演習教材を配布する。</p> <p>【参考図書】 授業時に必要に応じて参考図書を紹介する。</p>				

授業科目名 (英語表記) ものづくり産業マネジメント演習	担当者 岩本 隆志	単位数 1 単位	開講期 後期	区分 選択科目	配当 年次 2年～
Seminar in Management for Manufacturing Industry					
<p>【授業概要】 地域産業マネジメント論の演習であり、とくにものづくり産業において製造・組立など生産に適用される生産管理システムの実践を演習する。具体例として、コンピュータを活用した品質管理、在庫管理、資材所要量計画(Material requirements Planning:MRP)について演習を行いながら、ものづくりの全体的なマネジメントの方法論を身につける。</p> <p>【到達目標】 コンピュータを活用して、マネジメント理論を実際に適用することができる応用力を身につける。具体的には、アクティブ・ラーニングを通して、ものづくりの方法論の実践的理解を深める。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 授業で学んだことを日ごろの生活の中で生かせるよう努めること。そのためには、予習・復習を欠かさず、関連事項にも好奇心をもって学習に望むこと。</p> <p>【留意事項】 実践演習の導入で、理論と実践の融合を図る(アクティブラーニングの推進)。学習したことがどのような場で役立つ実践を通して理解すること。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末テスト60点、提出物(製作品、レポートを含む)20点、演習における態度と熱意20点で評価する。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 生産マネジメント:需要予測 需要予測の演習 <実践演習1> 需要予測の適用演習 <実践演習2> 品質管理について 統計的品質管理の基礎演習 <実践演習3> 管理図による適用演習 <実践演習4> 在庫管理について 定期発注方式の基礎演習 <実践演習5> 定量発注方式の基礎演習 <実践演習6> MRP生産方式について MRP生産方式の適用演習 <実践演習7> ジャスト・イン・タイム・システム(JIT)、ERP ジャスト・イン・タイム・システム(JIT)とERPの適用演習 まとめ <p>【テキスト】 大橋和正、暮らしに役立つ技術と工学の基礎知識、共立出版、2008年。 ISBN 978-4-320-07175-9。必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>【参考図書】 大橋和正、人の発達段階を考慮したものづくり教育の体系化、風間書房、2015年。 ISBN 978-4-7599-2072-7</p>				

授業科目名 (英語表記)	地域の商い概論	担当者	松尾 純廣					
Fundamentals of Regional Business	単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当 年次	1年～
【授業概要】 1. 地域の活性化をビジネスの視点で考える方法を理解する。 2. 地域産業の変革と成長を考える方法を理解する。 【到達目標】 1. 「愛着」と「価値」を見出せる地域の様々な資源(モノやコト)を探すこと。2. そうした資源を発見したら、誰にどのような「価値」をもたらすか考えること。 【予習・復習等準備学習の内容】 本講義は、実践演習はもちろんのこと、通常の授業においてもPBL、ALを導入した実践的な教育を目指している。授業への積極的な参加意識を持つことを求める。 【留意事項】 本講義は、実践演習はもちろんのこと、通常の授業においてもPBL、ALを導入した実践的な教育を目指している。授業への積極的な参加意識を持つことを求める。 【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験60点、ディスカッションにおける発言や参加姿勢20点、およびディスカッションに関するレポート20点計100点満点で評価する。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. 地域における商いとは—地域産業と商いの創生— 2. 商いの設計—商品の開発— 3. 商い産業—顧客の開発— 4. 顧客価値とサービス 5. 事例学習とグループディスカッション〈実践演習1:地域資源の発見と顧客価値〉 6. 商い産業マネジメント—新しい商いの創造— 7. ビジネスデザイン 8. サービスマネジメント 9. 商い産業融合—事業利益の創出— 10. ビジネスモデル 11. 事業の収益化 12. 事例学習とグループディスカッション 〈実践演習2:地域産業のビジネスモデル〉 13. 商い産業戦略—商いの変革と成長— 14. スタートアップ戦略 15. イノベーション戦略 【テキスト】 適宜、プリントを配布する。 【参考図書】 アレックス・オスターワールド他(2012) ビジネスモデル・ジェネレーション:ビジネス設計書 翔泳社 忽那憲治他(2016) 地域創生イノベーション:企業家精神で地域の活性化に挑む 中央経済社							

授業科目名 (英語表記)	商い設計論	担当者	建井 順子					
Marketing Design	単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	1年～
【授業概要】 商いを成立させるための方法論について講義する。商いを成立させるためには、需要と供給のバランス、顧客サービスの継続を考慮することで、持続的で安定的な経営が求められる。ここでは、経営者が目指す商い論を実現するための方法論を、設計論として講義する。 【到達目標】 流通、商業についての基礎的知識を身につける。また、流通・商業の特徴とその変遷を追うことにより、流通・商業を見る視点を養う。 【予習・復習等準備学習の内容】 毎授業後、教科書の該当部分を読み、必ず復習しておくこと。 【留意事項】 特になし。 【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 各回講義後に提出するコメントペーパー30%、期末試験70%で評価する。授業中の質問や発言は加点要素とする。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. 流通とは 2. 百貨店と総合スーパー 3. 食品スーパーとCVS 4. ディスカウント・ストアとSPA 5. 商店街とショッピングセンター 6. 変化する流通構造 7. 小売業態とは何か 8. 日本型取引慣行 9. 流通系列化からの脱却 10. ロジスティックス 11. 売買集中の原理と品ぞろえ形成 12. 商業の外部性と商業集積 13. 投機的流通から延期的流通へ 14. 生産と流通の分業関係の変化 15. まとめ 【テキスト】 石原武政・竹村正明編著(2014)『1からの流通論』碩学舎 【参考図書】 授業中に必要に応じて指示する。							

授業科目名 (英語表記)	商い産業各論	担当者	松尾 純廣					
Commerce and Service Industry	単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当 年次	2年～
【授業概要】 地域産業論に続く内容で、3次産業、とくに商いの伝統的な方法に基づいて、商学・マーケティング・流通システム等における原価(コスト)の流れを中心に、利益を追求するための方法論や現代におけるコンピュータを活用した科学的観点からの方法論も導入しながら、商いの本質であるコスト・価値の流れに言及した方法論を講義する。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. マーケティング・コンセプト 2. 消費者行動 3. マーケティング・リサーチ 4. マーケティング戦略 5. 事例学習とグループディスカッション 6. プロダクト(製品デザイン) 7. プライス(価格設定) 8. プロモーション(広告と販促) 9. プレイス(流通) 10. テストとコントロール 11. 事例学習とグループディスカッション 12. CRM 13. デジタル・マーケティング 14. ブランドとサービス・マーケティング 15. まとめとグループディスカッション:商いの現在と課題							
【到達目標】 本講義は、様々な「商い産業」経営の基本となる販売・マーケティングのしくみを理解できるようにすることを目標とする。ただし、基本とはいえ最新の経営方法を習得することをねらいとしている。	【テキスト】							
【予習・復習等準備学習の内容】 参考文献ではあるが、文献を使って学習してほしい。わからないことは講義で確認すれば、理解が深まりグループディスカッションにも積極的に参加できるようになる。	【参考図書】 大学4年間のマーケティングが10時間で学べる 阿部誠 KADOKAWA ISBN-10: 4046020156 1,620円							
【留意事項】 特になし。	【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験60点、ディスカッションにおける発言や参加姿勢20点、およびディスカッションに関するレポート20点計100点満点で評価する。							

授業科目名 (英語表記)	商い産業演習	担当者	松尾 純廣					
Seminar in Commerce and Service Industry	単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	2年～
【授業概要】 商い産業各論の演習で、商品に関わる原価の流れを理解し、原価計算・原価管理等の方法論について演習する。さらに、商いの仕方、考え方の方法論として、基本的なPOSデータを用いて、売上・仕入れ・在庫の一連の管理の方法論を演習する。POSデータによる活用演習より、販売員管理、顧客管理、クレジット管理、商品管理など多角的な基礎的経営管理法が理解でき、実践力を身につける。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. 小売業の種類①小売りのしくみ 2. 小売業の種類②業態 3. マーチャンダイジング①商品計画と仕入計画 4. マーチャンダイジング②在庫管理 5. マーチャンダイジング③販売管理 6. ストアオペレーション①店舗運営 7. ストアオペレーション②ディスプレイ 8. 事例に基づくディスカッション 9. マーケティング①顧客満足 10. マーケティング②マーケティングリサーチ 11. マーケティング③リージョナルプロモーション 12. 販売・経営管理①経営分析 13. 販売・経営管理②従業員管理 14. 販売・経営管理③施設管理 15. グループディスカッション:小売店経営の在り方について							
【到達目標】 本講義は、小売経営(商い)の基礎を実務的に理解できることを目標にしている。今まで何気なく買い物をしてきたお店や販売員の仕事をわかるようになることがねらいである。	【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。							
【予習・復習等準備学習の内容】 買い物をしている様々なお店や販売員のことを、普段に注意して観察してほしい。それが学習につながる。	【参考図書】 販売士検定試験関係の文献							
【留意事項】 本講義は、日本商工会議所が実施している「販売士検定試験(1～3級)」の試験内容を参考としている。	【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験60点、ディスカッションにおける発言や参加姿勢20点、およびディスカッションに関するレポート20点計100点満点で評価する。							

授業科目名 (英語表記)	商い産業マネジメント演習	担当者	建井 順子					
Seminar in Management for Commerce and	単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	2年～
【授業概要】 地域産業マネジメント論の商い産業に関わるマネジメント演習である。小売の各業態の事例を通して、商いの全体的なマネジメントの方法論を身につける。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. 小売業態の生成と進化 2. 商業集積 3. 呉服系百貨店と電鉄系百貨店 4. 総合スーパーと食品スーパー 5. 第1回～第4回についてのグループディスカッション 6. コンビニエンスストア 7. 均一価格店 8. ドラッグストア 9. 総合ディスカウントストア 10. 第6回～第9回についてのグループディスカッション 11. 家電量販店 12. 紳士服量販店 13. 家具専門店と衣料専門店 14. オンラインモール 15. 第11回～第14回についてのグループディスカッション							
【到達目標】 小売の各業態の事例を通して、商いの全体的なマネジメントの方法論を身につける。	【テキスト】 崔相鐵・岸本徹也編著(2018)『1からの流通システム』碩学舎							
【予習・復習等準備学習の内容】 毎授業後、教科書の該当部分を読み、必ず復習しておくこと。授業で学修した業態について、身近な例を見つけておく。	【参考図書】 授業中に必要に応じて指示する。							
【留意事項】 特になし。	【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 各回講義後に提出するコメントペーパー30%、期末試験70%で評価する。演習中の積極的な質問や発言も加点要素とする。							

授業科目名 (英語表記)	地域社会学	担当者	神田 竜也					
Regional Community Studies	単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当 年次	1年～
【授業概要】 この授業では、地域づくりの基本となる社会学について学ぶ。まず、わたしたちが日常生活を営む地域社会のとらえ方やそのなりたちについて説明する。そのうえで、戦後の高度成長期を経て、日本の地域社会がどのような問題に直面するようになったのかを述べる。さらに、少子高齢化、東京一極集中、グローバル化などの社会変動が、今日の地域社会にどのような影響をあたえているのかを考察する。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. 地域とは何だろうか？ 2. 地域社会の空間範囲とわたしたちの生活 3. 地域の集団・組織・ネットワーク 4. 都市社会の構造 5. 都市の社会変動 6. いろいろな都市問題 7. 多文化共生と地域社会 8. 公共交通と地域づくり 9. グループワークと発表(地域づくりに関する新聞記事) 10. むらの組織と構成原理 11. 過疎地域と村落社会の変化 12. 新しい農村住民 13. 棚田と村落社会 14. 地元住民主体の地域づくり 15. 地域調査の方法							
【到達目標】 本講義は、地域社会の諸問題に対する理解と関心を深めることがねらいである。これに加えて、自らを地域社会の一員として認識し、今後どのような地域貢献が求められるかを考えて、それを実行しようとする姿勢を養う。	【テキスト】 なし。プリントを配布する。							
【準備学習の内容】 地域づくり、地域問題に関する書籍や雑誌、新聞記事を読んで、学習内容の関心度を高めておくこと。	【参考図書】 授業中に指示する。							
【留意事項】 授業では、適宜、実習・演習、協同学習などを取り入れる。出席の際は授業マナーを守ること(スマホを触らない、机の上に置かないなど)。	【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 試験70%、提出物(授業中の実習課題、ミニッツペーパーなどを含む)30%で総合評価する。なお、試験終了後、希望者には試験問題解説や採点基準を説明する。							

授業科目名 (英語表記)	地域政策概論	担当者	白井 信雄						
Fundamentals of Regional Policy		単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当 年次	1年～
<p>【授業概要】 地域を持続可能な発展を図る方策として、地域政策の役割は重要である。本講義では、人口減少、コミュニティの弱体化、環境・エネルギー問題、財政圧迫等の解決すべき地域諸問題について、地域政策の立案と実践のための方法論について説明する。また、国家レベル・自治体レベルにおける地域政策の現状と課題、革新的で成功している具体的な事例を解説する。</p> <p>【到達目標】 地域政策の実践のための基本的な視点と方法を理解するとともに、地域の具体的な施策への関心と意欲を高める。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 常に、地域政策に関する新しい情報を入手し、それと授業の内容を結びつけるように努めること。</p> <p>【留意事項】 中間レポートとして、自分が注目する地域施策を調べ、報告する。講義中の質疑や意見交換に積極的に参加すること。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末テスト50点、中間レポート30点、授業態度20点で評価する。期末テストは、講義内容の理解度と主体的な学習による考察の深さ等の側面で採点する。中間レポートの不合格者については、問題点を指摘した上で、レポートの再提出を求める。</p>		<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 地域政策のこれまでと未来その1: 過密と過疎の問題と国土開発、内発的発展、地方分権 3. 地域政策のこれまでと未来その2: 持続可能な発展の危機と目指すべきこと 4. 地域政策の方法その1: 調査と分析、予測、計画とPDCA 5. 地域政策の方法その2: 住民参加と協働のデザイン 6. ワークショップ: 地域政策の課題を話し合う 7. 地域政策の実践事例その1: 人口減少対策、中山間地域対策、UJIターン支援 8. 地域政策の実践事例その2: 農林水産業の公益性を活かす 9. 地域政策の実践事例その3: 伝統産業と先端産業の振興 10. 地域政策の実践事例その4: 商業と中心市街地の活性化 11. 地域政策の実践事例その5: 福祉と心身の健康 12. 地域政策の実践事例その6: 気候変動、循環型社会、生物多様性、エネルギー 13. 地域政策の実践事例その7: 地域資源の活用、農商工連携、6次産業化 14. 地域政策の実践事例その8: 地産地消と都市農山村交流 15. まとめ <p>【テキスト】 授業に用いる、パワーポイントの資料を配布する。</p> <p>【参考図書】 授業内で参考書を指示する。</p>							

授業科目名 (英語表記)	自治体概論	担当者	澤 俊晴						
Introduction to Local Government		単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当 年次	1年～
<p>【授業概要】 自治体の仕組み、組織、役割等について概説する。 具体的には、地方自治全般の歴史や制度、自治体の人事管理、法務、政策、行政執行、財政等の内容を説明し、自治体の活動全般を講義する。 また、地域の諸問題の解決に向けた自治体の取り組みを特定の分野を取り上げて紹介する。</p> <p>【到達目標】 地方自治の意義や地方自治体の組織・運営についての基礎的知識を修得するとともに、自治体の政策について自らの考えを述べる能力や政策立案に必要な基礎知識を身に付ける。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 事前に教科書等で予習し、自らが十分に理解できなかった事項を把握し、講義終了時には疑問点についてコメントペーパーを提出し、講義後には自らそれを中心に復習を行うこと。</p> <p>【留意事項】 新聞やニュースなどにより、日頃から、都道府県や市町村などの行政の動きに関心を持っておくこと。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 自治体行政に関する基本的な理解ができているかどうかを基準として、定期試験(60点)とコメントペーパーの内容及び講義での質問などの受講態度(40点)により評価する。ただし、欠席回数が多い場合は、試験成績にかかわらず不合格とする。</p>		<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の概要・参考文献の紹介など(オリエンテーション) 2. 地方自治の歴史 3. 都道府県と市町村 4. 執行機関と議会 5. 自治体の人事・組織管理 6. 自治体財政 7. 地方分権改革と都道府県・市町村の権限 8. 自治体の政策過程 9. 政策法務と条例 10. 住民生活保障 11. 地域づくり 12. 産業・商工行政 13. 教育行政 14. 自治体経営改革 15. 住民と自治体 <p>【テキスト】 磯崎初仁・金井利之・伊藤正次、ホーンブック地方自治(第3版)、北樹出版、2014年</p> <p>【参考図書】 特になし。</p>							

授業科目名 (英語表記)	地域情報論	担当者	小林 伸行						
Regional Information		単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当 年次	1年～
【授業概要】	<p>地域の経済・産業の分析、企業や自治体の産業政策立案等を行うためのデータ作成のツールとして、統計学の手法は有効である。ここでは、統計学を活用して地域のデータ・経営データを整理・分析するために必要となる最低限の統計的基礎知識を習得する。そして、具体的な地域データを活用しながら、統計的解析手法の適用方法を事例で展開し、理解を深める。</p>								
【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・基本統計量の計算ができる ・相関係数を計算できる ・推定を理解できる 								
【学習内容(各回の授業予定)】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学の意義 2. データの解釈(日常生活とデータ) 3. データと地域(地域性の統計分析) 4. 時系列データ(経済指標ほか) 5. 分布とヒストグラム(電話利用のパターン) 6. 平均値(高すぎる平均貯蓄額) 7. 相関(ポートフォリオ分析) 8. 質的変数(賛否, 性別, 学歴, 階層, 購買行動) 9. 順位(売上の上昇・下降傾向) 10. 平均の統計分析(平均, 分散, 標準偏差, 偏差値) 11. 相関係数(年齢血圧関係) 12. 回帰と予測(最小二乗法による予測) 13. カテゴリカルデータ(要因の関連をしらべる) 14. ノンパラメトリック的方法(順位からの相関関係) 15. 因子分析(現象の共通原因) 								
【予習・復習等準備学習の内容】	<p>次回の授業までに課題を行い、わからないことをまとめること。</p>								
【留意事項】	<p>特になし</p>								
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】	<p>課題(40%)、期末試験(60%)で評価を行う 評価について、希望する学生には個別に資料を基に説明を行う。</p>								
【テキスト】	<p>わかりやすい統計学[第2版] 丸善出版 978-4-621-08064-1</p>								
【参考図書】	<p>特になし</p>								

授業科目名 (英語表記)	地域資源論	担当者	中村 聡志						
Regional Resources		単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	1年～
【授業概要】	<p>地域における特徴ある資源とは何か、またそれを活用していかに地域活性化を行うかについての方法を講義する。地域資源には自然資源(自然や景観など)と人文資源(歴史、社会、産業、文化、教育など)があるが、講義ではその内容と活用方法について、具体的な事例にもとづいて学修する。特に地域資源の活用と地域経済の活性化との関連性に重点を置きながら講義を進める。</p>								
【到達目標】	<p>地域資源の内容とその活用について、地域活性化の方策と結びつけて理解することを目標とする。</p>								
【学習内容(各回の授業予定)】	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション:この講義が目指すもの 2. 地域資源とは① 地域資源の定義 3. 地域資源とは② 地域資源の具体的イメージ 4. 地域資源の見つけ方、活かし方 5. グループワーク①:地域資源活用方法検討1 戦略を考える 6. グループワーク②:地域資源活用方法検討2 具体的方法を考える 7. 事例分析①-1 徳島県上勝町 <テキスト1> 取り組みの概要 8. 事例分析①-2 徳島県上勝町 <テキスト1> 取り組みの特徴 9. 事例分析①-3 徳島県上勝町 <テキスト1> 小テスト 最近の動向 10. 事例分析②-1 岡山県真庭市 <テキスト2> 取り組みの概要 11. 事例分析②-2 岡山県真庭市 <テキスト2> 取り組みの特徴 12. 事例分析②-3 岡山県真庭市 <テキスト2> 小テスト 最近の動向 13. 地域資源活用と地域経済 地域経済循環から考える 14. 地域資源は経済に関わるものだけなのか 15. 講義全体の振り返り 								
【予習・復習等準備学習の内容】	<p>授業テーマに関連する事項を、新聞や参考図書などで調べてくること。特に、グループワークおよび事例分析の講義の前には、指示されたテキストなどを熟読しておくこと。</p>								
【留意事項】	<p>グループワークや個人作業、ディスカッションなどを多用するので、それらに積極的に参画することが不可欠である。また、経営学の基礎について理解していることが講義の前提となる。</p>								
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】	<p>期末テスト30%、小テスト30%、グループワーク20%、講義に取り組む姿勢20%で評価する。</p>								
【テキスト】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 横石知二(2007)『そうだ、葉っぱを売ろう! :過疎の町、どん底からの再生』ソフトバンククリエイティブ 2. 笹野尚(2014)『産業クラスターと活動体』エネルギーフォーラム 								
【参考図書】	<p>野中郁次郎・廣瀬元乃・平田透(2014)『実践ソーシャルイノベーション:知を価値に変えたコミュニティ・企業・NPO』千倉書房 中村良平(2014)『まちづくり構造改革:地域経済構造をデザインする』日本加除出版</p>								

授業科目名 (英語表記) 地方法務論	担当者 澤 俊晴	単位数 2 単位	開講期 後期	区分 選択科目	配当 年次 1年～
Locality and Law					
【授業概要】 地域産業、とくにアグリ産業、ものづくり産業、商い産業の活性化の方法論を考えるとき、その地域の基盤となる法制度を理解しておく必要がある。 また、住民の日常の営みに関わる法制度についても、併せて理解し、基礎知識として活用する必要がある。 本講義では、地域に関わる法務関連知識について整理し、解説する。 なお、前期の「法学」を履修していることが望ましい。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. 本講義の概要・法律の学び方(オリエンテーション) 2. 法とは何か/法の歴史 3. 法の体系/立法過程 4. 基本的人権と統治機構 5. 地方自治と地方分権 6. 日常生活と契約 7. 事故と法 8. 紛争の解決 9. 法律による行政/法律と条例の関係 10. 中小企業と法 11. 雇用社会のルール 12. 社会保障と法/消費者と法 13. 地域振興と法/情報化社会と法 14. 法律等作成演習① 15. 法律等作成演習②				
【到達目標】 法制度についての基礎知識を修得するとともに、日常生活を含めた地域社会の中で、法がどのような機能を果たしており、作用しているのかを理解し、さらには、「法律学」特有の考え方を身に付ける。					
【予習・復習等準備学習の内容】 事前に教科書等で予習し、自らが十分に理解できなかった事項を把握し、講義終了時には疑問点についてコメントペーパーを提出し、講義後には自らそれを中心に復習を行うこと。					
【留意事項】 ポケット六法(有斐閣)かデイリー六法(三省堂)を持参するか、e-Gov法令検索の利用環境を整えること。	【テキスト】 磯崎初仁、自治体政策法務講義(改訂版)、第一法規、2018年				
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 法学の初歩的概念、講義で取り上げた法制度、条文の読み方などを理解しているか基準として、定期試験(60点)とコメントペーパーの内容及び講義での質問などの受講態度(40点)により評価する。ただし、欠席回数が多い場合は、試験成績にかかわらず不合格とする。	【参考図書】 特になし				

授業科目名 (英語表記) 地域情報演習 I	担当者 小林 伸行	単位数 1 単位	開講期 後期	区分 選択科目	配当 年次 1年～
Seminar in Regional Information I					
【授業概要】 地域に関する生のデータを収集し、統計的分析法を適用しながら、結果をVisualに表現して分かりやすくまとめ、考察するための演習である。コンピュータを用いて統計処理を行う手法や図式表示の方法等を活用しながら、収集した生のデータを加工し、地域の特徴、課題等をまとめ、地域活性化を行っていくための資料づくりを実践する。	【学習内容(各回の授業予定)】 1. 統計資料の探し方 図書やインターネットから統計データを収集 2. Excelによる単純集計 統計データから基本統計量を計算 3. Excelによる度数分布表・ヒストグラムの作成 4. データにあったグラフの作成(国勢調査の人口データ) 5. 単純集計のまとめ 6. Excelによるクロス集計 7. Excelによる相関と回帰(量的データの分析) 8. 相関、疑似相関、因果関係 9. クロス集計のまとめ 10. 地域とデータ(全国平均との差から各地域の特徴を調べる) 11. 原因を考え仮説を立てる 12. 仮説を証明する地域データの収集 13. 収集した地域データの分析・グラフ化 14. 期末レポートの作成 15. まとめ				
【到達目標】 ・本やインターネットから統計データを取得できる ・Excelを用いてデータの種類に応じた分析を行うことができる ・分析した結果を分かりやすい表やグラフとして作成できる	【テキスト】 プリントなどで資料を提示する				
【予習・復習等準備学習の内容】 次回の授業までに課題を行い、わからないことをまとめておくこと。	【参考図書】 わかりやすい統計学[第2版] 丸善出版 978-4-621-08064-1				
【留意事項】 データ活用入門・地域情報論を履修していること					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業の課題(40%)、期末レポート(60%)で評価する 評価について、希望する学生には個別に資料を基に説明を行う。					

授業科目名 (英語表記)	地域情報演習Ⅱ	担当者	小林 伸行						
Seminar in Regional Information II		単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当 年次	2年～
【授業概要】 地域情報演習Ⅰに続く演習で、コンピュータを用いて、地域に関わるビッグデータの活用や地理情報システム(GIS)の適用を通して、地域・企業・行政に関わるデータ処理方法、データ活用方法、さらには加工されたデータの可視化技術法についても解説する。そして、具体的な事例データを基に、コンピュータを用いたデータ処理演習を行う。		【学習内容(各回の授業予定)】 1. GIS入門 2. 既存データの地図データと属性データ 3. 空間データ 4. ラスタデータ 5. ベクトルデータ 6. 属性テーブル 7. テーブル結合 8. グラフのオーバーレイ表示 9. 基本的な空間解析 10. 3D表示 11. ネットワーク分析 12. ネットワーク分析の結果の可視化 13. 領域分析 14. 点データの分析 15. ラスタデータの分析							
【到達目標】 ・空間データとGISに関する基本知識の修得 ・GISの基本的な操作(追加・編集等)ができる ・GISで属性テーブルを用いることができる ・GISで基本的な分析を行うことができる。		【テキスト】 プリントを配布							
【予習・復習等準備学習の内容】 次回の授業までに課題を行い、わからないことをまとめておくこと。		【参考図書】 わかりやすい統計学[第2版] 丸善出版 978-4-621-08064-1							
【留意事項】 地域情報演習Ⅰを履修していること		【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業の課題(40%)、期末レポート(60%)で評価する 評価について、希望する学生には個別に資料を基に説明を行う。							

授業科目名 (英語表記)	地域ビジネス論	担当者	中村 聡志						
Local Business		単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当 年次	2年～
【授業概要】 本講義では、地域の解決すべき諸問題について、効果的な地域政策はどのようなものであるかを調査・分析しながら、政策とそれに続くビジネスについて考察する。地域経済においてビジネス活動が担っている役割や影響を理解した上で、どのように地域の課題解決にビジネスの視点や手法を取り入れたらよいのか、行政や住民などとの連携の観点も含めて考えていくこととしたい。		【学習内容(各回の授業予定)】 1. オリエンテーション:地域ビジネスのイメージ 2. 地域経済の実情 3. 地域課題から生まれるビジネスのアイデア : 地域ビジネスとは 4. 地方でビジネスの手法は使えるのか : 地域課題解決の主体 5. 地方と都市の関係の変化 : 地域ビジネスを支える都市の役割 6. 地域の人々と地域ビジネスとの橋渡し : 地域ビジネスと地域社会の関係 7. 地域ビジネス実現のポイント : 地域ビジネスを支援する政策 8. 地域ビジネスの実際:実際の地域企業家による講演 9. ビジネスの仕組み:ビジネスプランの仕組み 10. グループワーク1:ビジネスプランの実践 11. グループワーク2:地域ビジネスの検討 12. 地域ビジネスを通じた地域全体の活性化事例1 13. 地域ビジネスを通じた地域全体の活性化事例2 14. 地域ビジネスの新しい潮流 15. 講義全体の振り返り							
【到達目標】 地域経済におけるビジネスの役割と、地域課題の解決に有効なビジネスの視点を理解することを目標とする。		【テキスト】 使用しない。							
【予習・復習等準備学習の内容】 授業テーマに関連する事項を、新聞や参考図書などで調べてくること。		【参考図書】 講義の中で指示する。							
【留意事項】 グループワークは積極的に参加すること。		【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末テス60%、グループワーク20%、講義への参加姿勢20%で評価する。							

授業科目名 (英語表記)	コミュニティ設計論	担当者	石田 尚昭					
Community Design	単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当 年次	2年～
【授業概要】 コミュニティに関する設計論の内容は、時代と共に変化してきたが、大切なことは人と環境の調和をどのように創り上げるかである。高度成長期には住宅・施設の建設・配置などのハード面から、また、近年では地域環境の適正・改善活動、住民同士の地域社会の形成などソフト面から主にアプローチされ、新たなコミュニティを形成するための方法論が提案されてきた。そして、コミュニティ設計のための対策と新たな組織づくりが求められている。そこで、本講義では人と社会に調和するコミュニティの設計論について論じる。		【学習内容(各回の授業予定)】 1. オリエンテーション(コミュニティ設計論の意義・地域コミュニティの把握方法・展開予定) 2. 岡山他におけるコミュニティ事例(西川・県庁通り・玉島他)を学ぶ 3. 地域の思いを聞く①(外部:西川緑道公園歩行者天国実行委員会・NPOタブララサ他) 4. 地域コミュニティの現状把握発表 5. 地域資源を探すフィールドワーク手法 6. コミュニケーションの取り方を学ぶ(対話型鑑賞を通して・協力:みるを楽しむ!アートナビ岡山他) 7. 地域資源収集フィールドワーク①(西川緑道公園他) 8. 地域資源収集フィールドワーク②(西川緑道公園他) 9. コミュニティデザインの事例を学ぶ 10. 地域の思いを聞く②(外部:エンノバ他) 11. 行政の仕組み・地域イベントを学ぶ(外部:岡山市・満月BAR他) 12. まちづくり事例を学ぶ(外部:ミナモト建築工房他) 13. 地域資源の整理・共有(7・8を基に資源の情報発信の方法を探る) 14. 地域コミュニティの課題の理解 15. コミュニティ設計の対象地域(地域活性化を図る地域)の検討・発表						
【到達目標】 地域コミュニティにおいて中心的役割を果たせる、現状把握力、企画力、組織運営能力の基本的能力の取得		【テキスト】 「コミュニティデザイン学」 編者 小泉秀樹(一般財団法人 東京大学出版会)						
【予習・復習等準備学習の内容】 ・自身が居住もしくは実家のある地域のコミュニティの把握 ・地域にある活用できる資源の把握		【参考図書】 特になし						
【留意事項】 学生自身が居住あるいは実家のある地域についての現況をしっかりと把握するため、家族、近隣の人とコミュニケーションを十分とること。		【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 レポートにて評価する(配分10割) (地域を活性化させるための組織と事業についての提案書作成) レポートの不合格者については、問題点、不足項目等を指摘したうえで、レポートの再提出を求める。						

授業科目名 (英語表記)	地域ビジネス演習	担当者	中村 聡志					
Seminar in Regional Business	単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	2年～
【授業概要】 本演習では、地域ビジネスを支える政策について、地域活性化の観点から理解を深める。地域の特徴あるビジネスを通じて活力ある地域経済社会を実現するためには、どのような政策を策定することが有効であり、かつ地域活性化に役立つかを、地域政策に関わるいくつかの論点の検討と、事例の分析を踏まえながら考えていく。		【学習内容(各回の授業予定)】 1. オリエンテーション:地域ビジネスを支えるもの 2. 地方行財政の在り方の変化1:地方財政の仕組みなど 3. 地方行財政の在り方の変化2:官民パートナーシップなど 4. 地方行財政の在り方の変化3:金融との連携 5. コミュニティの変化1:コミュニティの変質など 6. コミュニティの変化2:協働化社会など 7. 新たな担い手の台頭1:ソーシャル志向など 8. 新たな担い手の台頭2:ソーシャル志向など 9. ここまでの講義の振り返り 10. 事例分析①-1:西粟倉村 取り組みの概要 11. 事例分析①-2:西粟倉村 取り組みの検討 グループワーク 12. 事例分析②-1:東近江市 取り組みの概要 13. 事例分析②-2:東近江市 取り組みの検討 グループワーク 14. 事例分析③:事例比較 グループワーク 15. 演習全体の振り返り						
【到達目標】 地域ビジネスとそれを支える政策の関係について、地域をめぐる様々な環境変化の中で理解することを目標とする。		【テキスト】 使用しない。						
【予習・復習等準備学習の内容】 授業テーマに関連する事項を、新聞や参考図書などで調べてくること。また、復習を入念に行うこと。		【参考図書】 講義の中で指示する。						
【留意事項】 地域ビジネス論(2年前期)の内容を前提に講義を行うので、受講希望者は履修登録の際注意すること。また、グループワークは積極的に参加すること。		【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末テスト60%、グループワーク20%、講義への参加姿勢20%で評価する。						

授業科目名 (英語表記)	町と村づくり計画	担当者	澁谷 俊彦						
Urban and Rural Planning		単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	2年～
【授業概要】 「町と村づくり」をおこなうために必要な市街地と集落の調査・計画策定に関する講義である。第1に計画の基本論を説明する。第2に広域にわたる地域の把握方法について解説する。事例は福岡ー東京間の主要都市の市街地景観である。第3に岡山県内に残る歴史的な町並みや集落をこれからの「町と村づくり」に活かす事例について解説する。最後に協働活動をおこなっている地域でアクティブラーニングをおこなう。		【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の概要・到達目標・各週の内容・学修方法と評価について説明する。 2. 基本論(1) 基本論・町と村作り計画の歴史 3. 基本論(2) 都市計画(都市マスタープラン・岡山市の小学校区単位のコミュニティ) 4. 基本論(3) 農村計画(中山間地域対策・岡山市の小学校区単位のコミュニティ) 5. 基本論(4) 地域計画(小学校区単位・自然村単位) 6. 主要都市の計画と市街地景観の変動から学ぶこと(1) 福岡ー名古屋 7. 主要都市の計画と市街地景観の変動から学ぶこと(2) 名古屋ー東京 8. 伝統的市街地・集落を軸にした町と村づくりから学ぶこと(1) 倉敷伝建地区 9. 伝統的市街地・集落を軸にした町と村づくりから学ぶこと(2) 津山旧城下 10. 住民との協働活動から学ぶこと(1)岡山市中区平井学区の子ども・高齢者・防災 11. 住民との協働活動から学ぶこと(2)岡山県真庭市の中山間地域対策 12. アクティブラーニング(1)先行事例説明・岡山市中区平井学区の課題発見 13. アクティブラーニング(2)岡山市中区平井学区の課題解決活動実施) 14. アクティブラーニング(3)課題解決活動のまとめのワークショップ 15. 講義全体のまとめ・期末試験に向けての学修について指導 							
【到達目標】 公的支援の中の地域の施設が関連する分野の計画について基本論と事例を理解する。「町と村づくり演習」「卒業研究」に進むことができる基礎知識を習得することが目標である。		【テキスト】 大月敏雄 町を住みこなす 超高齢化時代の居場所づくり 岩波新書1671 配布する印刷物:平井学区安全・安心ネットワーク2016年作成「岡山市中区平井学区地震・津波・洪水からの避難マップ」 山陽学園大学総合人間学部生活心理学科住居研究室2016年作成「岡山県真庭に住もうマップ」							
【予習・復習等準備学習の内容】 理論面ではコミュニティ設計論を、活動面では地域実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを十分理解できているものとして、その上に学修を積み上げていく。学期を越えた復習を常にしていくこと。		【参考図書】 日端康夫 都市計画の世界史 講談社現代新書 2008 広井良典 コミュニティを問いなおす ちくま新書 2009							
【留意事項】 第13回目は少々汚れても良い服と、動きやすい靴を履いてくること。		【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 ◆期末試験(70点) アクティブラーニングのレポート(10点)本講義に関連する図書館の本のレポート(10点) 本講義の内容を活用できるよう整理したか現物確認(10点) ◆フィードバック:期末試験終了後回答合わせ・レポートの模範解答を示し質疑を受ける。							

授業科目名 (英語表記)	地域財政論	担当者	澤 俊晴						
Local Government Finance		単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	2年～
【授業概要】 地方財政は住民の生活や地域経済に大きな影響を与えるものである。そこで、本講義では、税の原則、地方税体系、補助金の現状と課題、地方交付税や地方債の機能、地方公営企業の現状と課題など、地方財政の仕組みや実情について具体例をあげながら、わかりやすく講義する。また、予算制度や地方財政健全化の取組、国と地方自治体との関係についても取りあげる。		【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の概要(オリエンテーション) 2. 地方財政とは 3. 国と地方の役割分担 4. 地方税の基礎 5. 地方税制 6. 受益者負担 7. 地方交付税 8. 国庫支出金 9. 地方債 10. 地方財政健全化 11. 予算制度 12. 地方財政の現状(岡山県) 13. 地方財政の現状(真庭市・和気町) 14. 地方公営企業 15. 行財政改革 							
【到達目標】 地方財政制度全般についての基礎知識を修得するとともに、各自治体の財政面での仕組みを理解し、毎年公表される自治体予算の内容とその背後にある理論を身に付ける。		【テキスト】 神野直彦・小西砂千夫、日本の地方財政、有斐閣、2014年							
【予習・復習等準備学習の内容】 事前に教科書等で予習し、十分に理解できなかった事項を把握し、講義終了時には疑問点についてコメントペーパーを提出し、講義後に復習を行うこと。		【参考図書】 特になし							
【留意事項】 新聞やニュースなどにより、日頃から、都道府県や市町村などの行政の動きに関心を持っておくこと。		【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 自治体座性に関する基本的な理解ができているかどうかを基準として、定期試験(60点)とコメントペーパーの内容及び講義での質問などの受講態度(40点)により評価する。ただし、欠席回数が多い場合は、試験成績にかかわらず不合格とする。							

授業科目名 (英語表記)	環境政策論	担当者	白井 信雄					
Environmental Policy	単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当 年次	2年～
【授業概要】	人間の経済社会活動に起因する複雑多様な環境問題に対して、解決策となる適切な環境政策を実施していくことが求められている。講義では、環境問題の基本的構造を踏まえて、環境政策の目標や考え方、主体の役割、政策手法の基礎を理解したうえで、都市生活型公害(大気汚染、水質汚濁等)、生物多様性(自然保全)、循環型社会(廃棄物問題)、気候変動(地球温暖化)、といった環境問題に対する具体的な政策とその課題、解決方法を学ぶ。							
【到達目標】	環境問題を解決した持続可能な社会を実現するためには、あらゆるの主体の取組みと連携、協働が必要である。政策手法の効果的な選択・不特定多数の取組みを促す啓発・学習・参加の施策が重要であることを理解する。環境問題の解決に貢献する意欲を高める。							
【学習内容(各回の授業予定)】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境政策の変遷と今日、これから何を指し、何を行うのか(オリエンテーション) 2. 環境政策の目標:対症療法と根本治療、持続可能な社会とは何か 3. 環境政策の原則:予防原則、汚染者負担と拡大生産者責任、協働と補完性 4. 環境政策の手法:規制的手法、経済的手法、情報的手法、学習・啓発 等 5. 都市生活型公害①:大気汚染、水質汚濁等に関する政策の成果と課題 6. 都市生活型公害②:地域内の未解決な公害問題と対策を考える <実践演習1> 7. 生物多様性政策①:自然保護、里山・里海の保全・活用に関する政策の成果と課題 8. 生物多様性政策②:里山を理解し、活用を考える <実践演習2> 9. 循環型社会政策①:拡大生産者責任を具体化したリサイクル法 10. 循環型社会政策②:ごみの有料化とポリマーミックスの動き 11. 循環型社会政策③:リユース(再使用)を促す施策を考える <実践演習3> 12. 気候変動政策①:緩和策(温室効果ガスの排出削減)のこれまでと今後 13. 気候変動政策②:気候変動の地域への影響評価と適応策の進め方 14. 気候変動政策③:気候変動の普及啓発プログラムを考える <実践演習4> 15. 環境政策論のまとめ、持続可能な社会に向けた展望 							
【予習・復習等準備学習の内容】	常に、環境政策に関する新しい情報を入力し、それと授業の内容を結びつけ、自分で調べ、考えるように努めること。実践演習として行うワークショップの前には、指示する内容を予習しておくこと。							
【留意事項】	1年次の環境論を履修し、環境問題の歴史や実態を理解しておくことが望ましい。また、毎回の講義の最後にコメントカードへの記入を求めるが、講義への質問や意見を積極的に記述すること。							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】	【テキスト】 授業に用いる、パワーポイントの資料を配布する。							
【参考図書】	授業内で参考書を指示する。							
期末テスト50点、中間レポート30点、授業態度20点で評価する。期末テストは、講義内容の理解度と主体的な学習による考察の深さ等の側面で採点する。中間レポートの不合格者については、問題点を指摘した上で、レポートの再提出を求める。								

授業科目名 (英語表記)	インターンシップ入門	担当者	神戸 康弘					
Introduction to Internship	単位数	1 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当 年次	1年～
【授業概要】	早い時期から就職への意識を高めるために、実際に企業へ出向き体験活動を実施する。実際の仕事や職場の状況を知ることは、自己の職業適性や職業生活設計など職業選択の参考になる。学生一人一人に正しい社会的な礼儀や適切な道徳的な知識を教授し、社会人としての規律を身につけてもらう。講義は最低限にとどめ、なるべく学生自らが主導して授業を進めるアクティブラーニング型の授業にする予定である。							
【到達目標】	インターンシップの理論的側面(先行研究など)の理解、インターンシップの効果測定尺度の理解、および実際に1dayインターンシップに参加し、インターンシップの効果を肌で感じることを目標とする。							
【学習内容(各回の授業予定)】	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス:インターンシップの理解 2. インターンシップの理論(文献調査) <グループ学習> 3. 各文献のテーマと発見事実のまとめ <グループ学習> 4. 社会人基礎力の測定尺度研究と測定 <測定体験> 5. 企業体験準備(ビジネスマナー等) <演習形式> 6. 1dayインターンシップ体験① <企業体験学習> 7. 振り返り、企業からの評価、次回の目標設定 <グループ学習> 8. 1dayインターンシップ体験② <企業体験学習> 9. 振り返り、企業からの評価、次回の目標設定 <グループ学習> 10. 1dayインターンシップ体験③ <企業体験学習> 11. 企業体験の振り返りディスカッション <グループ学習> 12. 企業体験に関する発表準備 <各自資料作成> 13. 企業体験に関する発表会 <発表> 14. インターンシップ発表会見学 <見学> 15. まとめと来年度インターンシップへの目標設定 <グループ学習> 							
【予習・復習等準備学習の内容】	毎回、自分は何のためにこの授業を履修しているのかを主体的に考え授業に臨むこと。グループ内での自分の役割を確認して授業に臨むこと。							
【留意事項】	この授業では学外の方々とは接する機会が多いため、失礼のない態度で臨むこと。また自ら主体的に学ぶ姿勢がないと意味のない授業となる。							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】	【テキスト】 毎回配布物を配布予定。							
1、授業への参加度・貢献度、2、課題提出、毎回の小テスト、3、期末試験、の3点を総合して成績評価する。単位認定試験のフィードバックは、講評をPC上で閲覧可能にする予定である。								
【参考図書】	『インターンシップ入門』(日本インターンシップ学会) 玉川大学出版部 『ストーリーとしての競争戦略』 楠木建(著) 東洋経済新報社							

授業科目名 (英語表記)	インターンシップ	担当者	神戸 康弘				
Internship	単位数 1 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当 年次	2年～
<p>【授業概要】 1年次の「インターンシップ入門」でいくつかの企業を全員で体験し、下地を得たため、この講義では、実際に5日間以上の就業体験を行う。一日の会社体験とは違い、1週間以上就業体験をすることで、企業をより深く知ることができ、自分は何がしたいのか、何をすべきなのかなど、学習や就業の目的をより明確にする。何カ所か体験可能先を提示するので、その中から選択し、夏休み等に体験し、後期にその振り返りと発表会を実施する。</p> <p>【到達目標】 主体性やコミュニケーション能力など社会人に必要とされるものがどの程度身に付いたか、具体的に到達目標(ルーブリック等)を作成し、自分がどのレベルか確認できるようにする予定である。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 毎回、自分は何のためにこの授業を履修しているのかを主体的に考え授業に臨むこと。グループ内での自分の役割を確認して授業に臨むこと。</p> <p>【留意事項】 この授業では学外の方々と接する機会が多いため、失礼のない態度で臨むこと。また自ら主体的に学ぶ姿勢がないと意味のない授業となる。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 到達レベルの評価を基本に、1 インターンシップ準備状況、2 インターンシップ体験時(企業評価等)、3 体験後の発表会、の3点を点数化し総合的に成績評価する。またフィードバックは、今年度生の講評をPC上で閲覧可能にする予定である。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス:この授業の進め方 2. インターンシップ準備:意義と到達目標 <グループ学習> 3. インターンシップ準備:体験可能企業等紹介 <グループ学習> 4. インターンシップ準備:自己PR等エントリーシート作成 <演習> 5. インターンシップ準備:自己PR完成、添削、提出 <演習> 6. インターンシップ準備:体験先企業(施設)の決定 <演習> 7. 合同マナー研修受講 <グループ学習> 8. 社会人基礎力の測定、最終打合せ <グループ学習> 9. インターンシップ体験:事前打ち合わせから初日 <体験学習> 10. インターンシップ体験:2日目～4日目 <体験学習> 11. インターンシップ体験:それ以降(あれば) <体験学習> 12. インターンシップ体験:最終日 <体験学習> 13. 体験後、「日誌」など各種書類提出、振り返り <グループ学習> 14. インターンシップ発表会準備(資料作成) <演習> 15. インターンシップ発表会(全員発表) <発表> <p>【テキスト】 特に使用せず毎回配布物を配布予定。</p> <p>【参考図書】 『インターンシップ入門』(日本インターンシップ学会) 玉川大学出版部 その他、専用サイト「キャンパスウェブ」に多くの情報がある。</p>						

授業科目名 (英語表記)	簿記・会計論	担当者	大熊 正哲・鎌田 耕市郎				
Accounting Practice	単位数 2 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当 年次	1年～
<p>【授業概要】 地域の企業や諸団体、手づくりショップ等を効率的に経営するためには、会計と簿記に関する知識は不可欠である。そこで、本講義は、概論と演習をオムニバス形式で行い、会計・簿記を初歩から学びながら、自立した経営方法を学ぶための基礎的実践教科である。最初の概論は、簿記・会計の基本的概念や専門用語の意味、取引・決算時に必要となる財務諸表等の理論的内容で、引き続き演習で理解を容易にする。</p> <p>【到達目標】 簿記会計の基礎的知識を地域の企業や諸団体、手づくりショップ等の効果的な経営のために利活用できる。演習を通して、簿記・会計の入門から商業簿記の基本が理解できる。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 配布資料、講義ノートの内容を十分理解すること。講義でも課題を課すことがある。演習では毎回、復習問題を含む次回までの課題を指示するのでその課題を解き提出すること。</p> <p>【留意事項】 簿記・会計は、繰り返し学習することで身につくものである。また、人に教えられるようになって初めて理解できるものである。学び合いも取り入れる。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 講義でも小テストを実施する。演習では小テスト点数(20点)、学習意欲・課題の提出(20点)、期末テスト(60点)の合計点で評価する。試験の不合格者については、再試験の前に、類似の課題等を与える。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記・会計の意義と機能(大熊) 2. 簿記・会計の基本概念と理論(大熊) 3. 記帳のルール(鎌田) 4. 簿記一巡の手続き(鎌田) 5. 商品売買(鎌田) 6. 主要簿・補助簿(鎌田) 7. その他の取引(鎌田) 8. 試算表(鎌田) 9. 決算と決算整理(現金過不足、消耗品、売上原価)(鎌田) 10. 決算整理(貸し倒れ、減価償却)(鎌田) 11. 決算整理(見越し、繰り延べ)(鎌田) 12. 精算表(鎌田) 13. 帳簿の締め切り(鎌田) 14. 決算の手続き(鎌田) 15. 伝票式会計(鎌田) <p>【テキスト】 必要に応じて資料を配布する。</p> <p>【参考図書】 合格テキスト日商簿記3級 Ver. 10. 0 合格トレーニング日商簿記3級 Ver. 10. 0</p>						

授業科目名 (英語表記) 簿記・会計Ⅰ	担当者 鎌田 耕市郎			
Accounting Practice I	単位数 1 単位	開講期 前期	区分 必修科目	配当 年次 2年～
<p>【授業概要】 簿記・会計論に続く演習である。具体的な学習内容は、基本的な商業簿記の修得、経理関係書類の適切な処理や青色申告書類の作成等、初歩的な実務である。本演習での学修レベルは日商簿記3級レベルに相当する。履修後には実際に3級の資格が取得できるよう演習内容を配慮している。</p> <p>【到達目標】 ・日商簿記検定検定3級取得。 ・青色申告制度が理解できる。</p> <p>【準備学習の内容】 毎回、復習問題を含む次回までの課題を提示するのでその課題を解き提出すること。</p> <p>【留意事項】 簿記検定受験に向けて、着実に力をつけていくためには、講義とともに大切なのは、演習問題の繰り返しです。講義外でも自主的に取り組んでほしい。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 小テスト(20%)、学習意欲・課題の提出(20%)、期末試験(60%)の合計点で評価する。試験の不合格者には、再試験の前に、類似の課題等を与える。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 売買取引の仕訳 2. その他取引の仕訳 3. 伝票式会計 4. 合計試算表の作成 5. 残高試算表の作成 6. 決算整理仕訳 7. 諸勘定の締め切り 8. 精算表の作成 9. 繰越試算表の作成 10. 損益計算書の作成 11. 貸借対照表の作成 12. 確定申告制度 13. 確定申告書の作成 14. 青色申告制度 15. 青色申告書の作成 <p>【テキスト】 必要に応じて資料を配布する。</p> <p>【参考図書】 合格テキスト日商簿記3級 Ver.9.0 合格トレーニング日商簿記3級 Ver.9.0</p>			

授業科目名 (英語表記) 簿記・会計Ⅱ	担当者 鎌田 耕市郎			
Accounting Practice II	単位数 1 単位	開講期 後期	区分 必修科目	配当 年次 2年～
<p>【授業概要】 簿記・会計Ⅰに続く演習であり、具体的な内容は、工業簿記の基礎や初歩的な原価計算を修得する。修得した工業簿記、原価計算の知識はものづくり産業(第2次産業)のマネジメントに必要な知識となる。学修内容は、日商簿記2級のレベルに相当する。</p> <p>【到達目標】 ・工業簿記、原価計算の基礎が理解できる。</p> <p>【準備学習の内容】 毎回、復習問題を含む次回までの課題を提示するのでその課題を解き提出すること。</p> <p>【留意事項】 簿記検定受験に向けて、着実に力をつけていくためには、講義とともに大切なのは、演習問題の繰り返しです。講義外でも自主的に取り組んでほしい。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 小テスト(20%)、学習意欲・課題の提出(20%)、期末試験(60%)の合計点で評価する。試験の不合格者には、再試験の前に、類似の課題等を与える。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 工業簿記の基礎 2. 材料費 3. 労務費 4. 経費 5. 個別原価計算(1) 手続き 6. 個別原価計算(2) 製造間接費配賦 7. 部門別個別原価計算(1) 手続き 8. 部門別個別原価計算(2) 製造部門費配賦 9. 総合原価計算(1) 手続き 10. 総合原価計算(2) 加工費配賦 11. 総合原価計算(3) 仕損、副産物 12. 総合原価計算(4) 工程別 13. 標準原価計算(1) 手続き 14. 標準原価計算(2) 原価差異 15. 直接原価計算 <p>【テキスト】 必要に応じて資料を配布する。</p> <p>【参考図書】 合格テキスト日商簿記2級工業簿記 Ver.8.0 合格トレーニング日商簿記2級工業簿記 Ver.8.0</p>			

授業科目名 (英語表記) ファイナンシャルプラン入門	担当者 大熊 正哲・岡本 友美		
Introduction to Financial Planning	単位数 2 単位	開講期 後期	区分 選択科目 配当年次 1年～
<p>【授業概要】 ファイナンシャルプランの学修の基礎・基本となる科目である。概論と演習をオムニバス形式で行い、ファイナンシャルプランの基本理論を講義する。最初の概論は、ファイナンシャルプランの概説と関連法、年金・所得・税、保険制度・生命保険・損害保険、金融経済、債権・株式・信託、不動産に関する理論的内容であり、引き続き演習で理解を容易にする。</p> <p>【到達目標】 基礎的な知識を理解し、ファイナンシャルプランナー資格の3級程度の知識習得を目指す。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 講義毎に行う小テストで出来なかった問題について復習すること。</p> <p>【留意事項】 社会人ならば誰もが必要となる知識であり、なるべく全員が受講してほしい。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験(70%)、小テスト(20%)、授業態度などその他(10%)を総合して成績評価する。試験のフィードバックについては、解答、平均点、間違いが多かった問題、全体の講評などを試験後に掲示板に掲示する予定である。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ファイナンシャル・プランニング」とは何か (大熊) 2. パーソナル・ファイナンスの理論と実際 (大熊) 3. ライフプランニング(岡本) 4. 社会保険制度(岡本) 5. 所得税(岡本) 6. 住民税 (岡本) 7. リスクマネジメント・保険制度 (岡本) 8. 生命保険・損害保険・第3分野の保険(岡本) 9. 金融・経済の基礎知識 (岡本) 10. 金融商品 (岡本) 11. ポートフォリオ運用の基礎 (岡本) 12. 不動産の見方・取引 (岡本) 13. 不動産に関する法規制と税 (岡本) 14. 相続の基礎知識 (岡本) 15. ファイナンシャルプラン入門のまとめ (岡本) <p>【テキスト】 『ファイナンシャル・プランニング入門－for Students〔第4版〕』(日本FP協会) その他、必要に応じてプリント配布。</p> <p>【参考図書】</p>		

授業科目名 (英語表記) ファイナンシャルプラン I	担当者 大熊 正哲・岡本 友美		
Financial Planning Practice I	単位数 1 単位	開講期 前期	区分 選択科目 配当年次 2年～
<p>【授業概要】 ファイナンシャルプランに関する第一段階の演習科目である。演習に関する詳細項目としては、ライフプランニングと資産計画、リスク管理、金融商品運用、タックスプランニング、不動産、相続・事業承継である。演習の各項目における内容は、ファイナンシャルプランニング技能検定3級程度の知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ファイナンシャルプラン入門で学んだ知識をもとに、ファイナンシャルプランナー資格3級程度の知識と共に実技の習得を目指す。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 講義毎に行う小テストで出来なかった問題について復習すること。新聞の経済欄等を読むこと。</p> <p>【留意事項】 ・ファイナンシャルプラン入門で学んだ基礎知識を更に深め、実技も習得してほしい。 ・社会人ならば誰もが必要となる知識であり、なるべく全員が受講してほしい。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験(70%)、小テスト(20%)、授業態度などその他(10%)を総合して成績評価する。試験のフィードバックについては、解答、平均点、間違いが多かった問題、全体の講評などを試験後に掲示板に掲示する予定である。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスーファイナンシャル・プランニングの経済学的基礎(大熊) 2. 関連法規・法令順守・倫理 3. 法人税 4. 所得税の計算 5. 生命保険分析 6. 損害保険分析 7. 金融資産分析・投資指標 8. バランスシート・キャッシュフロー作成のための各種係数計算 9. 不動産の賃貸借・法令上の規制 10. 不動産と税金 11. 相続税と贈与税の計算 12. 提案書の作り方 13. 情報収集と問題点の把握 14. 問題点の解決 15. 提案書作成 <p>【テキスト】 ファイナンシャル・プランニング入門－for Students－〔第4版〕(日本FP協会) その他、必要に応じてプリント配布。</p> <p>【参考図書】 特になし。</p>		

授業科目名 (英語表記) ファイナンシャルプラン II	担当者 大熊 正哲・岡本 友美			
Financial Planning Practice II	単位数 1 単位	開講期 後期	区分 選択科目	配当 年次 2年～
<p>【授業概要】 ファイナンシャルプランに関する第二段階の演習科目である。内容はファイナンシャルプラン I の内容を、さらにレベルアップしたものである。演習に関する詳細項目としては、I と同様で、ライフプランニングと資産計画、リスク管理、金融商品運用、タックスプランニング、不動産、相続・事業承継である。演習の各項目における内容は、ファイナンシャルプランニング技能検定2級程度の知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ファイナンシャルプラン I で学んだ知識をもとに、ファイナンシャルプランナー資格2級程度の知識と共に実技の習得を目指す。</p> <p>【予習・復習等準備学習の内容】 講義毎に行う小テストで出来なかった問題について復習すること。新聞の経済欄等を読むこと。</p> <p>【留意事項】 ・ファイナンシャルプラン I で学んだ知識を更に深め、実技も習得してほしい。 ・社会人ならば誰もが必要となる知識であり、なるべく全員が受講してほしい。</p> <p>【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験(70%)、小テスト(20%)、授業態度などその他(10%)を総合して成績評価する。試験のフィードバックについては、解答、平均点、間違いが多かった問題、全体の講評などを試験後に掲示板に掲示する予定である。</p>	<p>【学習内容(各回の授業予定)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスーファイナンシャル・プランニングの経済学的基礎(大熊) 2. 社会保険 3. 公的年金 4. 個人所得税の計算 5. 法人所得税の計算 6. 生命保険分析2 7. 損害保険分析2 8. 金融資産運用 9. 金融商品と税金 10. 不動産の有効活用 11. 相続財産の評価 12. 事例研究1 13. 提案書作成1 14. 事例研究2 15. 提案書作成2 <p>【テキスト】 最短合格 FP技能士2級</p> <p>【参考図書】 特になし。</p>			

地域マネジメント学部
地域マネジメント学科

3年次以降の開講科目
[講義概要]

講義概要

今年度開講されない3年次以上の配当科目について、講義概要を掲載します。

専門教育科目 ＜学部基本科目＞

【科目名】ベンチャービジネス論 (Venture Business)
【配当年次】 3年次
【授業概要】 本講義では、ベンチャー企業を起業したり、独創性と冒険性、すなわちアントレプレナーシップをもって既存の企業や行政組織で新たな分野を立ち上げる時、必要となる基礎知識について、地域に関連する事例を加えながら解説する。具体的な知識としては、企業経営に必要な法的リスクマネジメント、ビジネスプランの作成手順と留意点、起業に向けた体制作り、会社設立のための手続き、経営管理、経営財務、財務分析、決算と公表等があり、詳細を講義する。

【科目名】地域産業戦略論 (Strategy for Regional Industry)
【配当年次】 3年次
【授業概要】(オムニバス) 6次産業化に対応する人材養成には、1次・2次・3次産業の融合化された知識や政策などに精通した幅広い知見が必要であり、それらをベースにして、製品の品質やサプライチェーンのリスクにおいても、競争相手に負けない産業方策を適切に意思決定できる方法論を講義する。1次産業分野においては、稲作・酪農畜産・果樹園芸の各領域での製品産出に対して相手に負けない経営的・戦略的意思決定の方法論、2次産業分野では、工業製品や伝統的熟練製品のリスクマネジメント論、価格競争に負けないものづくり方策を適切に意思決定できる戦略的方法論、3次産業分野では商品としてのサービスパックをいかにカスタマイジングし、ビジネス化して戦略的に活用するかを講義する。

<p>【科目名】 地域マネジメント実習 (Field Practice for Regional Management)</p>
<p>【配当年次】 3年次</p>
<p>【授業概要】</p> <p>1年次、2年次で培ってきた専門知識をベースにして、実際の産業現場、公的支援現場に赴き、育成能力としての課題発見力、課題解決力を培いながら活動することで、実践力を身につけることを目指す。アグリ産業専修、ものづくり産業専修、商い産業専修、政策と地域づくり専修の4つの専修ごとに実施する。1専修の学生数を15名程度とし、専修ごとに予め5社程度の実習先をリストアップしておく。1社当たり3名の学生数を派遣する。大学側における各専修指導教員は、実習先と連絡を密にし、一体となって学生指導をする。</p>

<p>【科目名】 卒業研究基礎 (Seminar in Thesis Research)</p>
<p>【配当年次】 3年次</p>
<p>【授業概要】</p> <p>卒業研究の準備段階として、卒業研究を行う教員のゼミ組織に配属し、地域に関する研究テーマをゼミ形式で行い、研究の方法論を修得する。具体的なゼミ内容としては、卒業研究に関連ある先行研究論文の収集や、研究論文の内容読み込み、理解、議論を通して、次年度の研究テーマ等の内容を定めたり、研究論文の書き方、まとめ方、研究の仕方等についても指導する。</p>

<p>【科目名】 卒業研究Ⅰ (Thesis Research I)</p>
<p>【配当年次】 4年次</p>
<p>【授業概要】</p> <p>卒業研究基礎での内容を踏まえて、4年間の学修の総仕上げとしての研究活動である。地域に関する研究テーマを設定し、文献調査、必要なら実地調査も実施しながら、担当教員の指導のもとで研究を実践する。前期末には研究発表会を開催し、これまでの研究成果、進捗状況を発表する。この発表会は、卒業研究Ⅱへと続く、いわば中間発表会としての位置付けである。</p>

<p>【科目名】 卒業研究Ⅱ (Thesis Research II)</p>
<p>【配当年次】 4年次</p>
<p>【授業概要】</p> <p>卒業研究Ⅰに引き続き、担当教員の指導のもとで、地域に関する卒業研究について、さらに深め、内容を充実させる。そして、学年末（後期末）には、その研究成果を卒業研究としてまとめ、提出する。提出後に、卒業研究発表会を行い、これまでの研究の集大成として研究内容を発表・公表する。</p>

<アグリ産業科目>

【科目名】 アグリ産業融合各論 (Integrated Agriculture and Agribusiness)
【配当年次】 3年次
【授業概要】 地域産業融合論に続く内容で、1次産業における2次産業あるいは3次産業の融合について講義する。稲作・酪農・果樹園芸の各領域において工業的に農業機械を活用した農産物の最適な生産方法の展開や、原価・販売目標を掲げた農産物の最適なコストの展開など複数目標を満足する生産の方法論について講義する。

【科目名】 アグリ産業融合演習 (Seminar in Integrated Agriculture and Agribusiness)
【配当年次】 3年次
【授業概要】 アグリ産業融合各論の演習で、具体的には機械技術を活用したハウス（工場）での果樹園芸栽培、たとえば温室のバラ栽培等を取りあげながら、機械化という2次産業の要素と原価・利益という3次産業の要素を絡めて、農産物の生産量の最適化や原価・利益の最適化など複数目標をみたす方法論を演習し理解する。

【科目名】 アグリ産業戦略演習 (Seminar in Strategy for Agricultural Industry)
【配当年次】 4年次
【授業概要】 地域産業戦略論のアグリ産業に関する戦略演習である。現代の農業においては、バイオテクノロジー等の農業関連技術を活かしたパッケージ商品や収穫時期をコントロールした農業生産が行われており、価格競争下における商品の開発と意思決定力が求められる。ここでは演習を通して、その方法論を理解する。

<ものづくり産業科目>

【科目名】 ものづくり産業融合各論 (Integrated Manufacturing Industry)
【配当年次】 3年次
【授業概要】 地域産業融合論に続く内容で、地域の伝統的熟練製品や現代的工業製品のものづくりについて考える。生産とサプライチェーン・マネジメントに関する問題発見とそれを解決するためのIE的融合問題を定式化し、複数目標のもとで生産性の向上をはかるための方法論を講義する。具体的には、生産すべき製品をとりあげ、素材調達から消費者へわたる流れの中で納期遅れのない、生産量の最適化、原価・利潤の最適化など複数目標を満足するものづくりの方法論を考察する。

【科目名】 ものづくり産業融合演習 (Seminar in Integrated Manufacturing Industry)
【配当年次】 3年次
【授業概要】 ものづくり産業融合各論の演習で、具体的な伝統的熟練製品や現代的工業製品を対象に、各種複数の評価基準の中で、融合問題を定式化し、製品が顧客に供給されるまでの管理法について例をあげて演習を行う。具体的には生産の機械化モデルとしてのメカおもちゃの設計・製作・管理を実際に行う中で、メカおもちゃの製造原価の考察、販売価格の設定、そして、どのように商品として流通させ利潤等複数の目標を最適にするかを演習し理解する。

【科目名】 ものづくり産業戦略演習 (Seminar in Strategy for Manufacturing Industry)
【配当年次】 4年次
【授業概要】 地域産業戦略論のものづくりに関する戦略演習である。特にものづくり産業においては、製品としての原価低減、デジタル・イノベーションやリスクマネジメント、さらに、複数目標のもとで、工程計画の変更、製造手順の改善、自動化技術、海外生産・販売など、価格競争に負けないものづくり方策等を、演習を通して理解する。

<商い産業科目>

【科目名】 商い産業融合各論 (Integrated Commerce and Service Industry)
【配当年次】 3年次
【授業概要】 地域産業融合論に続く内容で、3次産業における1次産業あるいは2次産業の融合について講義する。ここでは、パッケージ商品を対象にして、1次産業である特産物の収穫を例に、その加工を効率よく行う2次産業的目標をもつ実践活動を取りあげる。このパッケージ商品の販売を最大化することで、収穫活動にかかわる労力も最大化され、収穫量・利益の最大化につながることになる。このように複数目標を満足する融合の方法論について講義する。

【科目名】 商い産業融合演習 (Seminar in Integrated Commerce and Service Industry)
【配当年次】 3年次
【授業概要】 商い産業融合各論の演習で、機械化・自動化、手づくり等の生産も考慮した農業製品、工業製品、熟練製品等の生産・販売法を演習する。とくに、生産と販売が一緒になる生鮮商品等はとくに商品在庫を最小にする管理手法を演習で理解する。さらに、パッケージ商品としてグリーン・ツーリズムのツアーを取りあげ、パッケージ商品の売り上げを最大にするために、ツアー内容である特産物の収穫・加工の実施で、収穫益も最大になる方法論について演習し、理解する。

【科目名】 商い産業戦略演習 (Seminar in Strategy for Service Industry)
【配当年次】 4年次
【授業概要】 地域産業戦略論の商い産業に関する演習であり、商いを取り巻く環境を考慮しながら商品としてのパッケージ化のコンセプトの確立、カスタマイズ化の方法と費用の低減、マーケティングの開拓など複数目的の意思決定が求められる。これより、価格競争に負けないための商いに関する意思決定や産業を実践するための経営に関する方法論について、演習を通して理解する。

<政策と地域づくり科目>

【科目名】 地域資源活用演習 (Seminar in Regional Resources)
【配当年次】 3年次
【授業概要】 従来からの伝統的な地域資源を大切にしながら、さらなる新しい地域資源の発見や開発に向けて、調査活動を実施するための方法論について演習を行う。新たに得られた自然資源や人文・歴史資源等に対して、その資源を活用した地域活性化案を提示し、シミュレーションを実施しながら、地域の将来性・発展性について検討を行う。

【科目名】 町と村づくり演習 (Seminar in Urban and Rural Planning)
【配当年次】 3年次
【授業概要】 調査対象の地域を指定しながら、まず直接その現地に赴き、現状調査を実施する。そして、その地域で存在する今後に向けた課題、問題点等をまとめながら、今後に向けて問題解決をはかるための資料づくり演習を行う。作成した検討資料を基に、また地域住民とのワークショップを通して、現在の町と村づくりに役立てられる実践的な資料の完成を指導する。

【科目名】 地域環境マネジメント論 (Management for the Regional Environment)
【配当年次】 3年次
【授業概要】 産業を興すことで地域環境に新たに生じる問題点や課題は多い。廃棄物と3R（リデュース、リユース、リサイクル）、再生可能エネルギーの利用と省エネルギー等は、地方自治体における環境政策として取り組む課題でもあり、住民らのコミュニティとして問題解決に取り組むこともまた重要である。本講義では、実際に取り組みを行っている自治体を例にあげ、その方法論について検証しながら、地域環境に関するマネジメントのあり方を政策的観点から論じる。

【科目名】 政策と地域づくり演習 (Seminar in Regional Policy and Development)
【配当年次】 4年次
【授業概要】 他の地域に負けない産業戦略について、行政、政策の立場から、将来に向けて効果ある公的支援を先取りして考え、議論を深めていく演習である。地域資源を活用した地域の特色づくりを公的支援でどのように軌道にのせ、進行管理を図っていくかについて、具体的な政策・施策・事業のデザインを行い、実践の方法論を、演習を通して理解する。

<経営実務科目>

【科目名】 簿記・会計Ⅲ (Accounting Practice III)
【配当年次】 3年次
【授業概要】 簿記・会計Ⅲは、Ⅱに続く発展的内容の演習であり、選択科目とする。内容は、工業簿記と商業簿記を確実に理解し、地域の企業・組織を想定したケーススタディを行うことにより、地域マネジメントの実践的・応用的な能力を高めていく。この演習の内容は、卒業研究レベルの応用部門にも役立ち、応用的な2級レベルを意識している。

【科目名】 ファイナンシャルプランⅢ (Financial Planning Practice III)
【配当年次】 3年次
【授業概要】 ファイナンシャルプランに関する第3段階の演習科目である。選択科目であるが、内容はⅡの学修を踏まえて、さらにレベルアップを図った発展的な内容になっている。演習項目としては、事例問題に基づく計算問題（源泉徴収票の読み取り、会社四季報の読み取りから株価収益率等の計算、税額計算等）である。詳細項目は、Ⅰ、Ⅱと同じである。

実務経験のある本務教員ならびに担当授業科目一覧

地域マネジメント学科

科目担当者	授業に係る実務経験など	担当授業科目	科目区分	単位数	実践的教育の概要
岩本 隆志	システム開発(PG、SE、PM、PMO)	ものづくり産業マネジメント演習	専門	1	アクティブラーニングを取り入れ、議論し考える要素を取り入れる授業。
		地域産業マネジメント論	専門	2	アクティブラーニングを取り入れ、議論し考える要素を取り入れる授業。
神戸 康弘	証券会社、広告代理店、大学受験予備校 (※2)	インターンシップ入門	専門	1	インターンシップについて学ぶ授業。なぜインターンシップを行うかなど理論を学び、実際に3カ所程度企業に行き、インターンシップを体験する。
		(※2) インターンシップ	専門	1	前期にインターンシップ先を決定し、夏休みに各自インターンシップを体験し、後期に振り返りと成果発表会を行い、社会人基礎力の獲得を目指す授業。
澤 俊晴	県職員	自治体概論	専門	2	県職員としての実務経験をもとに、自治体の組織・運営や政策立案過程、地方分権の実態、さらには、具体的な施策について、実情を交えた教育を行う。
		地方法務論	専門	2	県職員としての実務経験をもとに、法律と条例の関係といった総論的な分野のほか、自らが携わった条例や、関わった事案を取りあげつつ、教育を行う。
		地域財政論	専門	2	県職員としての実務経験をもとに、地方交付税制度や地方公営企業の現状と課題などについて、地方財政健全化対策や公立病院改革に携わった経験を交えて、教育を行う。
中村 聡志	政府系金融機関	地域資源論	専門	2	地域における特徴ある資源を活用していかに地域活性化を行うか、マーケットでの活用方法を中心に学修する。
		地域ビジネス論	専門	2	地域の課題解決にビジネスの視点がどのように役立つのか、どのようにビジネスの手法を取り入れたらよいかを学修する。
		地域ビジネス演習	専門	1	地域政策とビジネスの関係について、地域活性化の観点から学修する。

※1 オムニバス等、多様な企業等から講師を招いて指導を行う授業

※2 学外でのインターンシップや実習、研修を中心とした授業

※3 実務経験のある教員や企業の協力を得て、実施している授業

山陽学園大学

〒703-8501

岡山市中区平井一丁目14番1号

TEL086(272)6254(代表)

FAX086(273)3226

教務部

TEL086(901)0503(直通)

kyoumu@sguc.ac.jp

【事務受付時間】 平日8:45～17:00